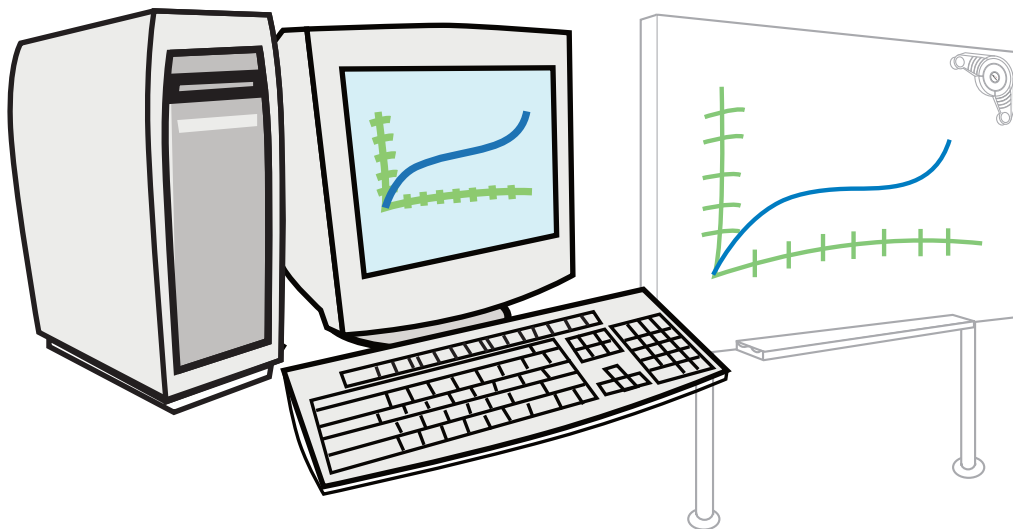




Installation and User Guide

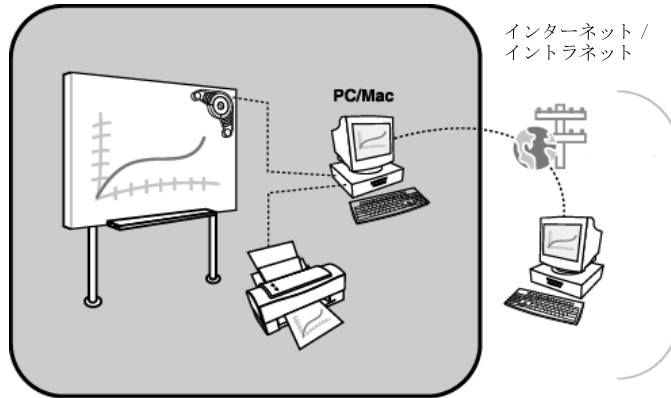
for Windows® 98SE/2000/ME/XP : **v2.3**



www.e-beam.com

eBeam によるこそ

Luidia, Incorporated 社の受賞製品 eBeam® システムにより、通常ホワイトボードがデジタルワークボードへと変身し、ホワイトボードへの描画の保存やプレゼンテーションが簡単にできるようになります。



市販のホワイトボードに eBeam システムを接続し、コンピュータに接続するだけで、ホワイトボード上の描画をリアルタイムで保存し印刷したり、どこでもだれとでもリアルタイムで共有できます。

eBeam システムは、会議室から教室まで、より効果的なミーティングやチームワークを築くための最善のソリューションです。

eBeam システムには eBeam Software が含まれています。以下に eBeam Software の機能を示します。

- ・ ホワイトボードからデータをリアルタイムで保存 ([eBeam Software のミーティングアプリケーション参照](#))
- ・ ホワイトボードを仮想タッチスクリーンとして使用 ([eBeam Software の投影モード参照](#))
- ・ ホワイトボードミーティングの背景に、画像その他のファイルをインポート — 画像ファイルや、PDA、MS PowerPoint、MS Excel、MS Word などのファイルをインポートできます ([背景画像参照](#))
- ・ ミーティング内容を再生したり、編集し注釈付けしたり、Eメール添付やFaxで送信または印刷
- ・ ミーティングの全体またはアクティブページを接続プリンタに印刷
- ・ ミーティング内容を数種類のファイル形式でハードディスクに保存
- ・ ミーティングの再生 ([プレイコントロール参照](#))
- ・ イン트라ネットまたはインターネット経由で、ホワイトボードミーティング (背景画像や注釈メモも含む) を共有 — ミーティングの参加者も、eBeam Software のチャットウィンドウにコメントを入力し、注釈を追加できます ([共有ミーティング参照](#))。
- ・ その他多数...

本ヘルプシステムは eBeam Software に含まれている機能を説明します。最新の FAQ については www.e-beam.com を参照してください。

eBeam Software 提供機能の概要を理解するには、まず [使用開始 - はじめにお読みください](#) から始めてください。

[使用開始 - はじめにお読みください](#)

まず、eBeam Software が eBeam ハードウェアに接続されていること確認し起動します。eBeam システムはハードウェアとソフトウェアで構成されています。ハードウェアはパッケージ同梱の指示に従って接続構成してください。本ヘルプシステムはソフトウェアの説明をします。

eBeam Software ではホワイトボードを以下のモードで使用します：

- ・ パワフルな共有機能を持つデジタルホワイトボードとして使用 ([eBeam Software のミーティングアプリケーション](#)を使用)
- ・ コンピュータやアプリケーション操作をホワイトボードから直接行うために、ホワイトボードを仮想タッチスクリーンとして使用 (プロジェクターと [eBeam Software の投影モード](#)を使用)

eBeam Software の各機能と使用開始に関する詳細は、以下のリンクを参照してください。

[システム要件](#)

[eBeam Software と eBeam ハードウェアの接続](#)

[ホワイトボードモードとは](#)

[投影モードとは](#)

[フリップチャートモードとは](#)

[ホワイトボードサイズの変更](#)

[eBeam テクノロジーのしくみ](#)

システム要件

eBeam Software 稼動コンピュータのシステム要件を以下に記載します。ただし、本ヘルプをアプリケーション内から表示している場合は、使用コンピュータは eBeam Software 稼動のシステム要件を既に満たしています。

Windows 対応コンピュータ

- ・ 100Mhz 以上の Pentium® 搭載の Windows® 対応コンピュータ
- ・ Windows 98/Me/NT4.0/2000/XP 稼動のコンピュータ — 他のプラットフォームでも、Java 対応インターネットブラウザの Java ™ アプレットを通して、共有ミーティングを表示できる場合もあります。
- ・ 10MB 以上のハードディスク空き容量
- ・ 256 色 VGA または SVGA モニタ
- ・ CD-ROM ドライブまたはインターネット接続 (ソフトウェアインストール用)
- ・ シリアルまたは USB ポート

マッキントッシュコンピュータ

本ヘルプシステムにはマッキントッシュ特有のトピックは含まれていません。それらに関する詳細は、以下のシステム要件を満たすマッキントッシュ用 eBeam Software を入手し、そのヘルプシステムを参照してください。

- ・ Power Macintosh®
 - ・ Mac OS X v10.1 以上稼動のコンピュータ
 - ・ 10MB 以上のハードディスク空き容量
 - ・ USB ポート
-

eBeam テクノロジーのしくみ

eBeam システムは非常に高度な技術を使用していますが、その基本概念は一般的な原理に基づくものです。

嵐の時に、稲妻を見てから雷が落ちるまでの時間（秒）を数えると、稲妻の起きている場所が自分の居る場所からどの位離れているかがわかります。これは、光と音の速いさの違いから、距離を計算できるためです。光は毎時6億7千マイル（670,000,000マイル）で進み、音は時速約760マイルで進みます。稲妻が起こると即座にそれを見ることができますが、雷の音を聞くまでには何秒かかかります。稲妻と雷の間が8秒の場合、嵐は約1マイル先です。

eBeam システムも同様の原理で作動します。まず eBeam の電子ペンがその位置を知らせるために赤外線的光を出し、eBeam システムがそれを受信します。また同時に電子ペンは超音波を出し、eBeam システムがそれを受信します。eBeam システムは赤外線を受信後、電子ペンからの超音波データを超音波レシーバ（センサーポッド）から得てメモリに記憶します。この時 eBeam システムは、赤外線を受信し超音波シグナルを受信した時刻から、その間の時間を正確に計算します。eBeam システムはそれらの時刻を +/- 3ms 差まで正確に測定できるため、距離を +/- 1mm まで正確に測定できます。

eBeam Software と eBeam ハードウェアの接続

eBeam ハードウェアをパッケージ同梱の指示に従って接続構成し、ソフトウェアをインストールした後で、eBeam Software を eBeam ハードウェアに接続し設定する必要があります。

| 手順 | 名称 | 記述 |
|----|-------|---|
| 1 | 接続 | eBeam ハードウェアと eBeam Software を接続します (接続方法 参照)。 |
| 2 | モード選択 | eBeam システムをどのモードで使用するかを選択します。ホワイトボードモード、フリップチャートモード (Windows 版の特定システムバージョンのみ対応)、投影モードから選択できます (モードの選択 参照)。 |
| 3 | 調整 | キャプチャエリアのサイズを定義します (調整 参照)。 |

接続方法

モードの選択

調整

ポート設定の選択

参照：

ホワイトボードモードとは

投影モードとは

フリップチャートモードとは

ホワイトボードサイズの変更

接続方法

eBeam Software は、起動時に eBeam ハードウェアを検知するようにデフォルトで設定されています。

- ・ eBeam への接続時に問題が発生した場合は、[eBeam ハードウェアを検知できない](#)を参照してください。
- ・ 起動時に自動接続するかどうかを設定するには、[起動時の接続設定](#)を参照してください。
- ・ eBeam Software が自動的に eBeam ハードウェアを検知するように設定されていない場合は、手動で eBeam ハードウェアを検知するように設定する必要があります。詳細は、[手動による eBeam ハードウェアの検知](#)を参照してください。

次に進む：[モードの選択](#)

eBeam ハードウェアを検知できない

eBeam Software が eBeam ハードウェアを検知できない場合は、「eBeam 検知」ダイアログボックスが現れ、「eBeam は検知されませんでした」メッセージが表示されます。このダイアログボックスには、使用可能ポートの一覧も表示されます。

ワイヤレス Bluetooth eBeam への接続時に問題が発生した場合は、[ポート設定の選択](#)および [eBeam システム 3、Bluetooth ワイヤレス](#)のトラブルシューティングのセクションを参照してください。

このダイアログボックスでは以下のコマンドを使用できます。

| コマンド | 記述 |
|------------------------|---|
| ポート状況一覧 | コンピュータで使用できる全ポートを表示し、それらが現在使用可能かどうかを表示します。 使用するポートを指定した（ ポート設定の選択 の「eBeam Hardware 設定」ダイアログボックス参照）場合は、指定したポートのみダイアログボックスに表示されます。 |
| アプリケーション開始時に eBeam を検知 | eBeam Software 起動時の eBeam ハードウェア検知を行う（デフォルト設定）場合に選択します（ 起動時の接続設定 参照）。 |
| ヘルプ | eBeam Software のヘルプシステムの該当ページを開きます。 |
| 設定 | 「eBeam Hardware 設定」ダイアログボックスを開きます（ ポート設定の選択 参照）。 |
| キャンセル | 検知処理をキャンセルします。ただし、eBeam Software は継続して使用できます。 |
| 再試行 | 「eBeam Hardware 設定」ダイアログボックスでの設定（ ポート設定の選択 参照）、またはポート一覧での選択に基づいて、eBeam ハードウェア検知を再度行います。 |

異なるポートに接続されている eBeam ハードウェアを検知するには：

1. ポート状況一覧から使用可能なポートを選択します。
2. 「再試行」ボタンをクリックします。

ポート一覧に使用可能なポートが表示されていない場合、また eBeam Software が eBeam ハードウェアを検知できない場合は、以下を確認してください。

- ・ eBeam ハードウェアが正しく接続構成され、電源が入っていて、コンピュータに接続されていること — 接続構成に関する詳細は、[パッケージ同梱の指示](#)を参照してください。
- ・ 正しいポートが選択されていること（[ポート設定の選択](#)参照） — 正しい通信ポートが選択されていますか？「自動検知」が選択されている場合は、「接続先」からポートを選択し接続を試みてください。
- ・ コンピュータに接続した PDA が通信ポートへの接続を妨げていないこと — 通信ポートに接続したまま、eBeam システムの接続を妨げている可能性のある PDA 用プログラム（同期プログラムなど）をすべて終了してください。

次に進む：[モードの選択](#)

起動時の接続設定

頻繁に eBeam Software を eBeam ハードウェアに接続しないで使用する場合は、起動時の eBeam ハードウェア検知をオフに設定できます。

起動時の eBeam ハードウェア検知をオフに設定するには：

1. 「編集」メニューから「設定」を選択し、「設定」ダイアログボックスで「Beam ハードウェア」タブを選択します。
デフォルトで「アプリケーション開始時に eBeam ハードウェアを検知」が選択されています。
2. チェックボックスのチェックマークを消去し、検知をオフに設定します。
後で起動時の eBeam ハードウェア検知をオンに設定するには、チェックボックスにチェックマークを付けます。
3. 「OK」をクリックします。

前に戻る：[ホワイトボードモードとは](#)

次に進む：[モードの選択](#)

参照：

[手動による eBeam ハードウェアの検知](#)

[eBeam ハードウェアを検知できない](#)

[eBeam Software の自動起動](#)

手動による eBeam ハードウェアの検知

「アプリケーション開始時に eBeam ハードウェアを検知」設定がオフに設定されている場合は、手動で eBeam ハードウェアを検知するように eBeam Software に指示する必要があります。

手動で eBeam ハードウェアを検知するには：

- ・ [eBeam Software のミーティングアプリケーションの「ツール」メニュー](#)から、「eBeam Hardware : 検知」を選択します。
- ・ [eBeam Software のミーティングアプリケーション](#)で eBeam 状況アイコンを左クリックします。
- ・ eBeam Software のモードを切り替えます ([モードの選択参照](#))。

前に戻る：[ホワイトボードモードとは](#)

次に進む：[モードの選択](#)

参照：

[起動時の接続設定](#)

[eBeam ハードウェアを検知できない](#)

モードの選択

eBeam Software では以下のモードがサポートされています（ただし、サポートされているモードはオペレーティングシステムにより異なります）。

| モード | 記述 |
|---|--|
| ホワイトボードモード | ホワイトボードモードでは、ホワイトボード上に描画された文字、画像、注釈メモをリアルタイムでカラーで電子的に捕え、eBeam Software のミーティングアプリケーションに取り込みます。キャプチャされたデータはイントラネットまたはインターネットを通して、ローカルまたはリモートで保存や表示などができます（ モードの選択 参照）。 ミーティングアプリケーションに関する詳細は、 eBeam Software のミーティングアプリケーション を参照してください。 |
| 投影モード (eBeam Software 稼働のコンピュータに、プロジェクターが接続されている必要があります) | 投影モードでは、ホワイトボードが仮想タッチスクリーンに変身します。プロジェクターによりコンピュータのデスクトップがホワイトボードに投影されていて、電子ペン（マウスインサートを挿入したもの）のホワイトボードへの動きを eBeam システムが検知するため、電子ペンを仮想マウスとして使用でき、ホワイトボードから直接コンピュータの操作が行えます。 ペイントやドローアプリケーションでのフリーハンドの描画や、eBeam Software のミーティングアプリケーションの操作などを含む、アプリケーションを開いてから終了するまでの、ほとんどの操作をホワイトボードから直接行えます（ モードの選択 参照）。 投影モードのツールに関する詳細は、 eBeam Software の投影モード を参照してください。 |
| フリップチャートモード (eBeam Software の Windows 版の特定システムバージョンのみでサポートされています。) | フリップチャートモードでは、フリップチャート上に描画された文字、画像、注釈メモをリアルタイムでカラーで電子的に捕えます。フリップチャートモードの機能はホワイトボードモードと同様です。eBeam システムの特定バージョン提供のフリップチャートクリップを標準フリップチャートに取り付け、eBeam システム 3 ハードウェアを取り付けます。このモードではページサイズが自動的に設定され、ショートカットストリップの位置が eBeam Software に通知されます（ フリップチャートモードでのショートカットストリップ 参照）。 フリップチャートモードは eBeam Software のミーティングアプリケーションでのみ使用します。詳細は eBeam Software のミーティングアプリケーション を参照してください。 (参照： モードの選択) |
| システムの接続解除 | eBeam Software を eBeam ハードウェアから接続解除します。ただし、eBeam Software は継続して使用できます。 |

eBeam Software は前回終了時に設定されていたモードで起動します。eBeam Software を初めて使用する場合は、デフォルトでホワイトボードモードに設定されています。

起動時のモードの選択

eBeam Software を初めて起動し、eBeam Software が eBeam ハードウェアを検知すると、eBeam Software をどのモードで使用するかを設定するためのダイアログボックスが表示されます。

以下のモードを選択できます（[モードの選択](#)参照）：

- ・ ホワイトボード上の描画をキャプチャ（ホワイトボードモード）
- ・ フリップチャート上の描画をキャプチャ（フリップチャートモード）
- ・ プロジェクターを使用する（投影モード）

起動時にモードを選択して設定するには、eBeam Software で使用するモードを選択し、選択モード用の調整ウィザードを開きます。

モードは、[モードの選択](#)での手順に従っていつでも変更できます。

前に戻る：[モードの選択](#)

次に進む：[調整](#)

参照：

[モードの選択](#)

[モード表示用アイコン](#)









[モードの選択](#)

[eBeam Software のミーティングアプリケーション](#)

[eBeam 用 Windows システムトレイメニュー](#)

モード表示用アイコン

eBeam Software では現モードを表す以下のアイコンが、[eBeam Software のミーティングアプリケーション](#)とコンピュータのデスクトップに表示されます。

| アイコン位置 | ホワイトボード モード | 投影モード | フリップチャート モード | システムの 接続解除 |
|-------------------------|---|---|---|---|
| 状況アイコン |  |  |  |  |
| Windows システムト レイメニュー |  |  |  |  |

前に戻る：[モードの選択](#)

次に進む：[調整](#)

参照：

[モードの選択](#)

[モードの選択](#)

[調整](#)

[eBeam 用 Windows システムトレイメニュー](#)

モードの選択

以下のメニューからモードを選択できます：

- ・ eBeam Software のミーティングアプリケーションの「ツール：eBeam Hardware」メニュー
- ・ eBeam Software のミーティングアプリケーションの状況アイコンから右クリックメニュー
- ・ eBeam 用 Windows システムトレイメニュー

以下のモードを選択できます：

- ・ ホワイトボード上の描画をキャプチャ（ホワイトボードモード）
- ・ リップチャート上の描画をキャプチャ（フリップチャートモード）
- ・ プロジェクターを使用（投影モード）
- ・ システムの接続解除（eBeam ハードウェアとの接続を解除しますが、eBeam Software は継続して使用できます）

前に戻る：[モードの選択](#)。

次に進む：[調整](#)。

参照：

[モードの選択](#)

[モード表示用アイコン](#)

[調整](#)

[eBeam 用 Windows システムトレイメニュー](#)

調整

調整とは

ホワイトボードの「描画エリア」とは、ホワイトボード上で電子ペンの動きを eBeam Software に取り込んで操作できるエリアです。eBeam Software は幅 2～8 フィート、高さ 5 フィートまでの描画エリアをサポートしています（ただし、実際の描画エリアのサイズは eBeam システムのタイプにより異なります）。

ホワイトボードを eBeam Software で使用する前に、ホワイトボードを調整して、描画エリアの幅と高さを定義する必要があります。調整を行うことにより、ホワイトボード上の描画の位置を eBeam Software で正確に捕らえることができます。描画エリアは、電子ペンの動き（描画やタップ）が正確に検知されるように、常に調整しておく必要があります。

調整後、eBeam Software は電子ペンの動きを、調整済み描画エリアの幅と高さへの相対的な位置として捕えます。電子ペンでの描画やタップは描画エリア内で行う必要があります。描画エリア外での動きは認識されません。描画エリアの幅と高さは、データを eBeam Software のミーティングアプリケーションに記録する場合にも使用されます。

調整方法

調整が必要な場合は、いつでも eBeam Software から調整用ウィザードを開いて簡単に行えます。

注意：eBeam システムを使用する場合、最初の eBeam Software 起動時に描画エリアの調整が必要であることを知らせるダイアログボックスが表示され、その場で調整できます。eBeam Software は、各ハードウェア構成につき 1 回の調整で済みます。ただし、eBeam シ

システムを新しい場所またはホワイトボード上の異なる場所に移動した場合、またはコンピュータを異なる eBeam システムに接続した場合は、eBeam Software を再調整する必要があります。

ミーティング内のページごとに調整して、異なる描画エリアサイズを持たせることもできます。この機能により、eBeam システムを異なるホワイトボードに移動しても継続して使用し、ミーティングにページを追加することができます。新しいホワイトボードとの差が 11% 以上ある場合は、新ミーティングページには新しいホワイトボードサイズが使用されます。画面では、サイズ変更を知らせ、現在の アクティブページ を新しいホワイトボードサイズに変更するかどうかを問うメッセージが表示されます。

eBeam Software を調整するには：

1. パッケージ同梱の指示に従って eBeam ハードウェアの接続構成を行います。
2. eBeam Software を eBeam ハードウェアに接続します。
3. 調整用ウィザードを開きます。調整用ウィザードが自動的に表示されない場合は、適切なウィザードを開く方法について、以下の表を参照してください。

| 調整モード | 記述 |
|------------|---|
| ホワイトボードモード | <u>eBeam Software のミーティングアプリケーション</u> の「ツール」メニューから「eBeam Hardware : キャプチャエリア調整」を選択するか、 <u>eBeam 用 Windows システムトレイメニュー</u> から「キャプチャエリア調整」を選択します。 |
| 投影モード | <u>eBeam 用 Windows システムトレイメニュー</u> から「投影エリア調整」を選択します。 |

4. 画面に表示される調整用ウィザードの指示に従います。

調整に失敗した場合は、電子ペンをホワイトボードに対し垂直に持ってタップするように注意し、再調整してください。

参照：

[拡張キャプチャ](#)

ポート設定の選択

「ポート」はコンピュータ内の eBeam Software と eBeam ハードウェアを接続するものです。ほとんどの場合、デフォルト設定のままでも問題なく接続できます。通常は自動的に eBeam ハードウェアを検知するように設定しておくことをおすすめします。ただし、eBeam ハードウェアが検知されない場合は、以下の手順でポート設定を確認してください。

ワイヤレス Bluetooth ユーザに対する重要な注意：eBeam ワイヤレス Bluetooth システムを使用している場合、このセクションで説明しているように eBeam Software で COM ポートを設定できるように、Bluetooth アダプタを接続する COM ポートがどれなのかを調べておく必要があります。Bluetooth アダプタに割り当てられている COM ポートの場所については、Bluetooth アダプタの設定ガイドの指示を参照してください。また、使用している OS の Bluetooth の接続構成を説明している、eBeam のインストラクション CD に含まれているチュートリアルも参照してください。

ポート設定を確認するには：

1. 以下の方法で eBeam ハードウェア設定用ダイアログボックスを開きます：
 - ・ 「eBeam 検知」ダイアログボックス（eBeam ハードウェアが検知できない場合に自動的に表示）で「設定」ボタンをクリックする
 - ・ eBeam Software のミーティングアプリケーションの「ツール」メニューから「eBeam Hardware : 設

定」を選択

- ・ eBeam 用 Windows システムトレイメニューから「システム設定」を選択
自動検知用のボタンはデフォルトで選択されています。

注意： Windows 対応コンピュータでは、自動検知により COM1、COM2、USB ポートのみ検知できます。

2. ポートを指定するには、「接続先」ボタンを選択し、プルダウンメニューからポートを選択します。
3. 「OK」をクリックします。

eBeam Software は選択ポートでの eBeam ハードウェア検知を試みます。

eBeam Software が eBeam ハードウェアを検知できない場合は、eBeam ハードウェアを検知できないを参照してください。

ホワイトボードモードとは

ホワイトボードモードでは、ホワイトボード上に描画された文字、画像、注釈メモをリアルタイムでカラーで電子的に捕え、eBeam Software のミーティングアプリケーションに取り込みます。キャプチャされたデータはイントラネットまたはインターネットを通して、ローカルまたはリモートで格納や表示などができます。

eBeam Software をホワイトボードモード、またはその他のモードに切り替える方法に関する詳細は、モードの選択を参照してください。

ホワイトボードモードでは以下の機能が提供されています：

- ・ ホワイトボードからデータをリアルタイムで保存 (eBeam Software のミーティングアプリケーション参照)
- ・ ホワイトボードを仮想タッチスクリーンとして使用 (eBeam Software の投影モード参照)
- ・ ホワイトボードミーティングの背景に、画像その他のファイルをインポートし共有 — 画像ファイルや、PDA、MS PowerPoint、MS Excel、MS Word などのファイルをインポートできます (背景画像参照)
- ・ ミーティング内容を再生したり、編集し注釈付けしたり、Eメール添付や Fax で送信または印刷
- ・ ミーティングの全体またはアクティブページを接続プリンタに印刷
- ・ ミーティング内容を数種類のファイル形式でハードディスクに保存
- ・ ミーティングの再生 (プレイコントロール参照)
- ・ イントラネットまたはインターネット経由で、ホワイトボードミーティング (背景画像や注釈メモも含む) を共有 — ミーティングの参加者も、eBeam Software のチャットウィンドウにコメントを入力し、注釈を追加できます (共有ミーティング参照)。

ミーティングに関する詳細は、eBeam Software のミーティングアプリケーションを参照してください。

投影モードとは

eBeam Software の投影モードに切り替えると、ホワイトボードを仮想タッチスクリーンとして使用でき、ホワイトボードから直接コンピュータを制御できます (このモードでは、eBeam Software 稼働のコンピュータに、プロジェクターが接続されている必要があります)。

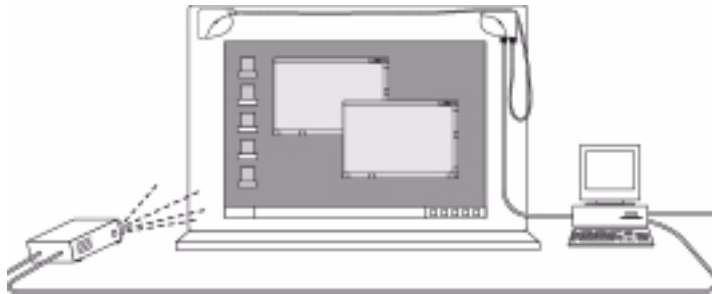
プロジェクターがコンピュータのデスクトップをホワイトボードに投影し、eBeam システムが eBeam ペンまたは eBeam の投影ペンのホワイトボードへの動きを検知するため、eBeam ペンまたは eBeam の投影ペンを仮想マウスとして使用でき、ホワイトボードから直接コンピュータ操作を行えます。

eBeam Software を投影モード、またはその他のモードに切り替える方法に関する詳細は、モードの選択を

参照してください。

投影モードでは以下の機能が提供されています：

- ・ アプリケーションを開き、操作し、閉じる
- ・ ペイントまたはドローアプリケーションでフリーハンドの描画をする
- ・ eBeam Software のミーティングアプリケーションを操作する — 共有などすべてのミーティング操作をホワイトボードから直接制御できます。
- ・ 投影ツールバーを使用して、デスクトップに注釈付けする — 注釈メモは保存、印刷、他のアプリケーションへのコピーができます。



上図で示されているように、コンピュータは eBeam ハードウェア（この場合は eBeam システム 1）とプロジェクターに接続されています。プロジェクターはコンピュータのデスクトップをホワイトボードに表示します。

投影モードでは、ホワイトボード上の電子ペンでのタップが、コンピュータのデスクトップ上でのマウスクリックの働きをします。コンピュータでと同様に、ホワイトボードからアプリケーションを開き操作して保存したり、閉じたり、注釈を付けたりできます。

eBeam システムのパッケージには、電子ペン内に入れるマウスインサートが同梱されています。マウスインサートを入れた電子ペンは、マーカの代わりに、ポイントをクリックするマウスデバイスとして機能します。マウスインサートを入れた電子ペンは、ホワイトボード上にマーカのクリックのあとを残さないため、プレゼンテーションの際、投影されたコンピュータのデスクトップ上のエリアを選択する時などに便利です。

eBeam Software の投影モードは、コンピュータデスクトップのアプリケーション操作を直接ホワイトボードから行うことができ、その度にコンピュータとホワイトボード間を往復しなくても済むため、プレゼンテーション用デバイスとして最適です。詳細は、ホワイトボードモードと投影モードの併用を参照してください。

ホワイトボードモードと投影モードの併用

eBeam Software の投影モードでは、ホワイトボード上に投影されたコンピュータのデスクトップ上にどのアプリケーションでも開けるため、eBeam Software のミーティングアプリケーションを開いてホワイトボードモードと投影モードを併用することもできます。

投影モードでさらに、コンピュータデスクトップ上に eBeam Software のミーティングアプリケーションを表示します。注釈ツールを使用し（ホワイトボードから）、ホワイトボードモードのアプリケーション内に描画したり、注釈メモを付けたりできます。またミーティングを共有したり、共有ミーティングに参加することもできます（ミーティングの主権と共有、またはミーティングへの参加参照）。

注意：eBeam Softwareの投影モード時に、eBeam Softwareのミーティングアプリケーションの背景画像機能を使用すると、プレゼンテーションの際に便利です。eBeam Softwareのミーティングアプリケーションに背景画像をインポートし、そのままホワイトボードに表示できます。ミーティングを共有する場合は、リモートのミーティング参加者にも背景画像を表示できます。

フリップチャートモードとは

フリップチャートモードでは、フリップチャート上に描画された文字、画像、注釈メモをリアルタイムでカラーで電子的に捕え、eBeam Softwareのミーティングアプリケーションに取り込みます。捕えられたデータはイントラネットまたはインターネットを通して、ローカルまたはリモートで保存や表示などができます。

eBeam Software をフリップチャートモード、またはその他のモードに切り替える方法に関する詳細は、モードの選択を参照してください。

フリップチャートモードでは、標準フリップチャートの2種類のサイズ (27 x 34 インチ、25 x 30.5 インチ) と、ユーザ定義のカスタムサイズをサポートしています。フリップチャートクリップは、フリップチャートモードがサポートされているバージョンのパッケージに同梱されています。

フリップチャートモードでは、フリップチャートページのサイズと、フリップチャートクリップ上のショートカットストリップの位置が eBeam Software に既に通知されているため、描画エリアの調整は必要ありません。詳細は、フリップチャートモードでのショートカットストリップを参照してください。

注意：フリップチャートモードは、eBeam Software の Windows 版の特定システムバージョンのみでサポートされています。

ホワイトボードサイズの変更

場合により、eBeam Softwareのミーティングアプリケーションでホワイトボードが正確に表示されないことがあります。ソフトウェアの画面が小さすぎる、またはホワイトボードのサイズが異なって表示されている、などの状況も考えられます。このような場合は、ホワイトボードのサイズを変更する必要があります。

eBeam Softwareの投影モードでは、ホワイトボード上でクリックした位置が、必ずしもソフトウェア上で正確に認識されないこともあります。このような場合は、「マイ コンピュータ」をダブルクリックしようとしたのかもしれませんが、そうではなく、「マイ ネットワーク」を開いてください。

ホワイトボードのサイズ (寸法) とクリック位置を正確に認識するには、描画エリアの幅と高さを定義する「調整」と呼ばれるプロセスを行い、設定または変更する必要があります。調整に関する詳細は、調整を参照してください。

拡張キャプチャ

eBeam Software の拡張キャプチャ機能を使用すると、eBeam システム 3 用の USB センサーポッドを 2 つ使用し、描画エリアを 2 倍に拡張できます (eBeam システム 3 用の USB センサーポッドが 2 つ必要です)。

注意：拡張キャプチャ機能での最大描画エリアは、シングルセンサーポッドでの最大描画エリアの 2 倍です。ほとんどの場合、最大エリアは幅 12 フィート、高さ 4 フィートです。

拡張キャプチャ機能を使用可能にするには：

1. ホワイトボードに eBeam システム 3 用の USB センサーポッドを (1 つをホワイトボードの左上に、もう 1 つを右上に) 設置します。
 2. 両方の USB ケーブルを eBeam Software 稼働のコンピュータに接続されている USB ハブに接続します。
-

重要：コンピュータによっては、拡張キャプチャは、2つのシステム3、USBのセンサーポッドが、コンピュータ自体ではなく、コンピュータに接続されているUSBハブに接続されている場合にのみ、機能します。

3. eBeam Software のミーティングアプリケーションを起動します。

注意：「ツール」メニューから「eBeam Hardware：設定」を選択します。

4. 「拡張キャプチャ」を選択します。

5. 「OK」をクリックします。

調整用ウィザードが起動し、ホワイトボード上の点をタップし eBeam システムを調整するように促します。画面上の指示に従って調整を行ってください（調整参照）。

参照：

調整

eBeam ハードウェアを検知できない

ソフトウェア更新状況の確認

eBeam Software の最新バージョンを確認するには：

1. eBeam Software のミーティングアプリケーションの「ヘルプ」メニューから、「更新チェック」を選択します。

アプリケーションバージョン確認用のダイアログボックスが表示されます。

ダイアログボックスの上部に、バージョン番号や前回バージョン確認日などの、現在のソフトウェア状況が表示されます。ダイアログボックスの下部では、eBeam Software の最新バージョン確認のためのスケジュールを設定できます。

スケジュール設定では以下の項目を選択できます：

- ・ アプリケーション開始時
- ・ 指定日数ごと
- ・ 確認せず

2. 「今すぐバージョンを確認」ボタンをクリックし、ダイアログボックス上部に使用ソフトウェアのバージョンを表示します。

3. 「ソフトウェア更新用 Web ページにアクセス」ボタンをクリックし、www.e-beam.com に行き、最新ソフトウェアをダウンロードします。

4. 「OK」をクリックします。

eBeam システム 3 ワイヤレス : Bluetooth の構成

ワイヤレス接続設定ユーティリティを使用して、eBeam ワイヤレスのセンサーポッド（以下参照）を変更できます。



次のヘルプトピックを参照してください。

[ハードウェアの設定](#)

[ワイヤレス接続設定オプション](#)

[わかりやすい名前の変更](#)

[セキュリティオプション（「検出」、「認証」、「暗号化」）](#)

www.e-beam.com で新しい FAQ およびソフトウェアのアップデートを定期的にチェックすることをおすすめします。

ハードウェアの設定

eBeam システム 3 ワイヤレスのセンサーポッドでワイヤレス接続設定ユーティリティを使用するには：

1. eBeam、ワイヤレスのセンサーポッドおよび PC に USB ケーブルを接続します。
eBeam、ワイヤレスのセンサーポッドでロゴの周囲の緑 LED ランプが点灯していることを確認します。これは、eBeam センサーポッドに電源が供給されていることを示します。
 2. eBeam Software を終了します。
eBeam Software が PC 上で稼働している場合、Windows システムトレイにある eBeam アイコンをクリックし、ポップアップメニューから「終了」を選択します。
-

3. ワイヤレス接続設定ユーティリティを開きます。

このユーティリティでは、eBeam システム 3 ワイヤレスのセンサーポッドが自動的に検知されます。ワイヤレス接続設定ユーティリティで eBeam システム 3 ワイヤレスのセンサーポッドを検出できない場合：

- ・ eBeam System 3 ワイヤレスのセンサーポッドが使用されていることを確認します。ワイヤレス接続設定ユーティリティでは、eBeam System 3 シリアルまたは USB のみのセンサーポッドは検出されません。
- ・ eBeam Software が稼動していないこと、および Windows システムトレイに eBeam アイコンがないことを確認します。
- ・ eBeam システム 3 ワイヤレスのセンサーポッドを USB ハブを介して接続している場合は、USB ケーブルを直接 PC に接続し、ワイヤレス接続設定ユーティリティを再起動します。
- ・ 複数の eBeam システムを PC に接続している場合は、1 つを残して他の eBeam センサーポッドはすべて接続を切断し、ワイヤレス接続設定ユーティリティを再起動します。

4. ワイヤレス接続設定ユーティリティによって eBeam センサーポッドが検出されると、構成画面が表示されます。この構成画面で使用可能なオプションに関する詳細は、[ワイヤレス接続設定オプション](#)を参照してください。

ワイヤレス接続設定オプション

ワイヤレス接続設定の構成画面には次の設定オプションがあります。

| 設定 | 説明 |
|----------|--|
| わかりやすい名前 | 「わかりやすい名前」は、eBeam システム 3 センサーポッドの名前で、Bluetooth 対応のデバイスを検索すると、PC、マッキントッシュコンピュータ、携帯端末に表示されます。 「わかりやすい名前」の変更に関する詳細は、 わかりやすい名前の変更 を参照してください。 |
| セキュリティ | セキュリティオプションにより、eBeam システム 3 ワイヤレスのセンサーポッドを使用できるメンバを決定できます。設定可能なセキュリティオプションには、以下のものがあります。 <u>eBeam が Bluetooth によって検出されるようにする 認証が必要 (PIN の設定) 暗号化を使用</u> |
| ヘルプ | ワイヤレス接続設定ユーティリティのヘルプシステムを表示します。 |
| 新しい設定を適用 | このセッション中に選択された設定をすべて適用し、ワイヤレス接続設定ユーティリティを閉じます。 |
| キャンセル | いずれの変更も実行せずにワイヤレス接続設定ユーティリティを閉じます。 |

わかりやすい名前の変更

「わかりやすい名前」は、eBeam システム 3 センサーポッドの名前で、Bluetooth 対応のデバイスを検索すると、PC、マッキントッシュコンピュータ、携帯端末に表示されます。eBeam システム 3 ワイヤレスのセンサーポッドは、出荷時には、デフォルトの汎用的なフレンドリネームが付けられています。

eBeam システム 3 センサーポッドのフレンドリネームを変更するには：

1. 「変更」ボタンをクリックします。

「わかりやすい名前の変更」ダイアログボックスが開き、センサーポッドの現在のフレンドリネームが表

示されます。

2. 新しいフレンドリネームを「新しい名前」テキストボックスに入力します。
3. 新しい名前にする場合は「OK」を、新しい名前にせず終了する場合は「キャンセル」をクリックします。

「新しい設定を適用」ボタンをクリックしてこれらの設定を確定します。

セキュリティオプション（「検出」、「認証」、「暗号化」）

セキュリティオプションにより、eBeam システム 3 ワイヤレスのセンサーポッドを使用できるメンバを決定できます。設定可能なセキュリティオプションには、以下のものがあります。

eBeam が Bluetooth によって検出されるようにする

認証が必要（PIN の設定）

暗号化を使用

eBeam が Bluetooth によって検出されるようにする

「eBeam が Bluetooth(TM) によって検出されるようにする」オプションにより、Bluetooth 対応のデバイスの検索中に eBeam システム 3 ワイヤレスのセンサーポッドを検出可能にするかどうかを設定できます。

eBeam システム 3 ワイヤレスのセンサーポッドが「検出可能」でない場合、他の Bluetooth 対応のデバイスはそれを検出できません。検出可能でないセンサーポッドに接続するには、あらかじめ、センサーポッドのフレンドリネームを調べておく必要があります。

eBeam システム 3 ワイヤレスのセンサーポッドが「検出可能」な場合、Bluetooth 対応のデバイスの検索中にセンサーポッドのフレンドリネームを検出できます。

センサーポッドを検出可能にするには、「eBeam が Bluetooth によって検出…」チェックボックスにチェックマークを付けます。「検出」をオフにするには、このチェックボックスのチェックを外します。

これらの設定を確定するには、「新しい設定を適用」ボタンをクリックします。

認証が必要（PIN の設定）

「認証が必要」オプションにより、eBeam システム 3 ワイヤレスのセンサーポッドへのアクセスをセンサーポッドの PIN を持っている人だけに制限できます。

認証を有効にするには：

1. 「認証が必要」チェックボックスにチェックマークを付けます。
2. 「変更」ボタンをクリックします。
「PIN の変更」ダイアログボックスが開きます。
3. 「新しい PIN を入力」テキストボックスに PIN を入力します。
4. 新しい PIN にするには「OK」を、新しい PIN にせずに終了するには「キャンセル」をクリックします。

認証を無効にするには、「認証が必要」チェックボックスのチェックマークを外します。

「新しい設定を適用」ボタンをクリックしてこれらの設定を確定します。

暗号化を使用

「暗号化」は、「認証が必要」にチェックマークが付いているときに有効です。

暗号化をオンにするには、「暗号化を使用」チェックボックスにチェックマークを付けます。暗号化をオフにするには、このチェックボックスのチェックマークを外します。

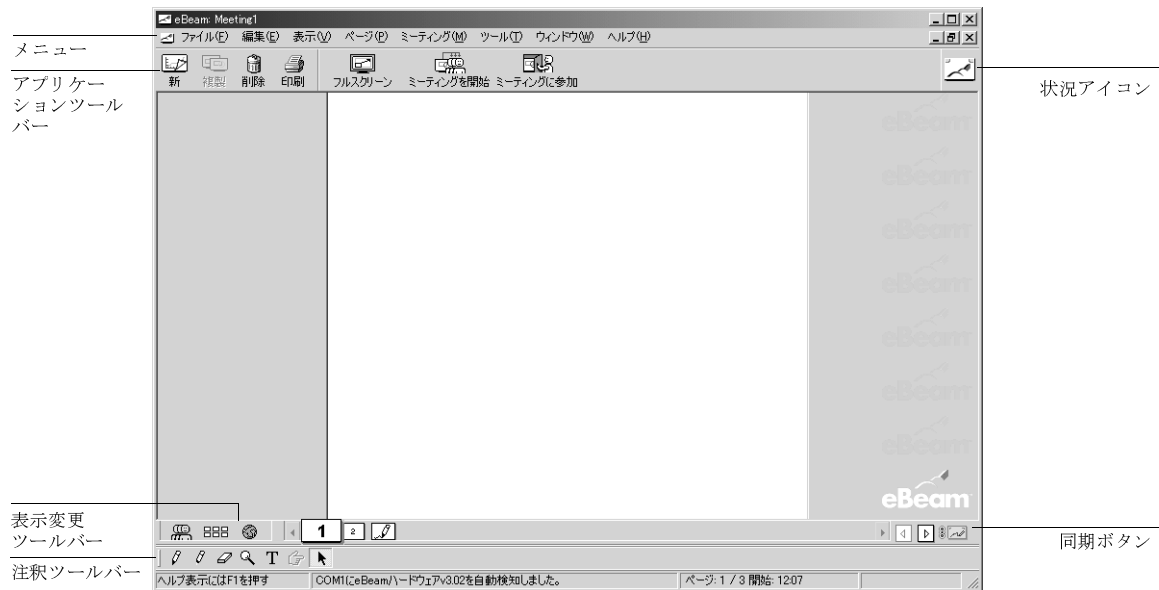
「新しい設定を適用」ボタンをクリックしてこれらの設定を確定します。

eBeam Software のミーティングアプリケーション

eBeam Software のミーティングアプリケーションはホワイトボードモードで使用します。このアプリケーションを使用することにより、ホワイトボード上のデータを保存、印刷したり、注釈を付けたり、またミーティングをイントラネットまたはインターネットを通して共有したりできます。

以下の方法でミーティングアプリケーションを開きます：

- ・ デスクトップの eBeam Software アイコンをダブルクリックします。
- ・ eBeam 用 Windows システムトレイメニューから「ホワイトボードのキャプチャ」を選択します。



以下のトピックに進む：

[メニュー](#)

[アプリケーションツールバー](#)

[表示と表示変更ボタン](#)

[描画線の幅とカラーの設定](#)

[注釈ツール](#)

[プレイコントロール](#)

[背景画像](#)

[ファイルのインポート / エクスポート / ファイル保存](#)

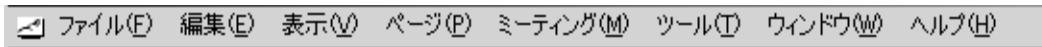
[別名保存 / 送信用のファイル形式](#)

[eBeam Software の自動起動](#)

[共有ミーティング](#)

メニュー

eBeam Software のミーティングアプリケーション メニューバー :



各メニュー項目に関する詳細を見るには、以下のリンクをクリックしてください。

[ファイル](#)

[編集](#)

[表示](#)

[ページ](#)

[ミーティング](#)

[ツール](#)

[ウィンドウ](#)

[ヘルプ](#)

ファイル

「ファイル」メニューの詳細は以下のとおりです :

| メニュー項目 | 記述 |
|------------------|--|
| 新規 | 新ミーティングを作成します。 |
| 開く | 標準的な「ファイルを開く」ダイアログボックスを表示します。拡張子が「. wbd」のファイルを選択し開きます。 |
| 閉じる | 選択ミーティングを閉じます。 |
| 保存 | 選択ミーティングを保存します。ミーティングを初めて保存する場合は、標準的な別名保存用ダイアログボックスを表示します。ミーティング名と格納場所を指定し、保存します。前回保存されている場合は、現名称で上書き保存されます。 |
| 別名で保存 | 標準的な別名保存用ダイアログボックスを開きます。ミーティング名と格納場所を指定し、保存します。ファイル保存用ファイル形式に関する詳細は、 別名保存 / 送信用のファイル形式 を参照してください。 |
| PDA ミーティングをインポート | PDA ミーティングのインポート用ダイアログボックスを開きます。(PDA ミーティングのインポート参照) |
| 印刷 | 標準的な印刷用ダイアログボックスを開きます。 |
| ページ印刷 | 選択ページを印刷します。(アプリケーションツールバー参照) |
| 印刷設定 | 標準的な印刷設定用ダイアログボックスを開きます。 |
| ページ設定 | ページ設定用ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスでは、印刷ページ用のヘッダ / フッタ情報を選択できます。また、境界線を印刷するかどうか指定できます。 選択可能情報 : ページ番号、ミーティング名、日付けと時刻、eBeam ロゴなど。 |

| メニュー項目 | 記述 |
|--------|---|
| 送信 | 送信用ダイアログボックスを開きます。選択ミーティングを複数形式で、Eメールに添付して送信できます。(送信参照) |
| 終了 | ミーティングアプリケーションを終了します。 |

編集

「編集」メニューの詳細は以下のとおりです：

| メニュー項目 | 記述 |
|--------|---|
| 元に戻す | ホワイトボード上のストロークまたは注釈を消去します。ページが白紙に戻るまでこのコマンドを使用して元に戻すこともできます。 |
| やり直す | 「元に戻す」コマンドで元に戻したホワイトボード上のストロークまたは注釈をやり直します。このコマンドは「元に戻す」コマンドが使用された場合に使用可能になります。「元に戻す」コマンドを複数回使用した場合は、ホワイトボード上の最終のストロークまたは注釈までやり直すことができます。ホワイトボード上で新しいストロークが描画されたり注釈が付けられると、このコマンドは選択できなくなります。 |
| コピー | 長方形で囲まれた部分の内容をコピーします。セレクトツール（注釈ツール内）を使って描いたホワイトボード上の長方形の内容、または選択されているオブジェクトをコピーします。コピーされたデータはクリップボードを介して他のアプリケーションに貼り付けられます。 注意：他のミーティングページにコピーデータを貼り付けることはできません。ただし、クリップボードのコピーデータを背景画像として eBeam ミーティングのページに含めることはできます。(背景画像参照) |
| テキスト削除 | 選択テキストボックス内のすべてのテキストを削除します。このコマンドは、テキストボックスが選択されている場合にのみ選択できます。注釈ツールのテキストツールの記述を参照してください。 |
| すべて選択 | ページ全体を選択します。フルページをコピーする場合に使用します(上記の「編集：コピー」コマンド参照)。フルページ表示のみで選択できます。(表示と表示変更ボタン参照) |
| 設定 | 設定用ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスは以下のタブを選択できます。 <ul style="list-style-type: none"> eBeam ハードウェア (eBeam ハードウェア設定の「eBeam ハードウェア」タブ用の記述参照) プロキシサーバ (プロキシサーバの設定参照) 環境設定 (環境設定タブ用の記述参照) 画像サイズ (画像サイズ参照) Web ツアー (Web ツアー設定参照) |

eBeam ハードウェア設定

「設定」ダイアログボックスの「eBeam ハードウェア」タブでは以下を設定できます：

- アプリケーション起動時に自動的にハードウェアを検知するかどうか (起動時の接続設定参照)

環境設定

「設定」ダイアログボックスの「環境設定」タブでは以下を設定できます：

- ・ ファイルの保存（[ファイル保存参照](#)）
- ・ アプリケーションツールバーの環境設定（[注釈ツール参照](#)）
- ・ ラインスムージング — アンチエイリアス機能をオン / オフできます。
- ・ PowerPoint プレゼンテーションのインポート

高画質の画像が含まれる PowerPoint のスライドを eBeam Software にインポートする際、PowerPoint は、通常、画像を低画質の画像フォーマットに変換することにより、ファイルサイズを縮小します。つまり、eBeam Software で表示される画像は、元の PowerPoint のスライドほどくっきりと明瞭ではありません。

「高画質の画像をインポート」にチェックすると、ファイルを eBeam Software にインポートする際に元の PowerPoint のスライドの高画質が保持されます。ただし、このオプションをチェックすることにより、PC のメモリの消費量が増え、ミーティングの保存、共有、および参加に時間がかかるようになります。

PowerPoint プレゼンテーションのインポートに関する詳細は、[PowerPoint プレゼンテーションをロード](#) を参照してください。

表示

「表示」メニューの詳細は以下のとおりです：

| メニュー項目 | 記述 |
|-------------------|---|
| ツールバー | ツール（ 注釈ツール ）とプレイコントロールツールバーを表示 / 非表示します。また、「ウィンドウ上部」または「ウィンドウ下部」コマンドを選択することにより、ミーティングアプリケーション上のツールバーの表示場所を指定できます。 |
| 拡大縮小 | 現ページを拡大縮小します。現ページの表示用に次の項目が選択可能です：「拡大」、「縮小」、「100%」。（ 注釈ツール内の「拡大縮小」ツール参照 ） |
| フルスクリーン | メニューを非表示にし、現ページをフルスクリーンで表示します。標準モードに戻るには、再度「フルスクリーン」を選択します。（ アプリケーションツールバー参照 ） |
| サムネイル | サムネイル表示にします。（ 表示と表示変更ボタン参照 ） |
| 参加者 | 参加者 / チャット表示にします。（ 表示と表示変更ボタン参照 ） |
| Web ツアー | Web ツアー表示にします。（ 表示と表示変更ボタン参照 ） |
| ページ | ページ表示にします。（ 表示と表示変更ボタン参照 ） |
| サムネイルをフロート表示 | サムネイルをフロート表示にします。 |
| 参加者をフロート表示 | 参加者 / チャットをフロート表示にします。 |
| Web ツアービューをフロート表示 | Web をフロート表示にします。 |

ページ

「ページ」メニューの詳細は以下のとおりです：

| メニュー項目 | 記述 |
|----------------|---|
| 新ページ | 現ミーティングに新ページを作成します。 現ミーティングに アクティブページ (eBeam システムからデータを受信しているページ) が含まれている場合は、新ページがアクティブページになります。別のミーティングにアクティブページが含まれている場合は、新ページは eBeam システムからのデータを受信しません。複数ミーティングが開いている場合に、ミーティングが eBeam ハードウェアからデータを受信するように設定する方法に関する詳細は、「 ツール 」メニューの「eBeam ミーティングの選択」の記述を参照してください。 |
| ページ消去 | 選択ページからすべてを消去します。 |
| ページ複製 | 選択ページを複製し、そのページの後に新ページを挿入します。 現ミーティングが アクティブページ を含み、複製の対象がアクティブページである場合は、複製されたページがアクティブページになります。複数ミーティングが開いている場合に、ミーティングが eBeam システムからデータを受信するように設定する方法に関する詳細は、「 ツール 」メニューの「eBeam ミーティングの選択」の記述を参照してください。 |
| ページ削除 | 選択ページを削除します。 |
| 全ページ削除 | 選択ミーティング内のすべてのページを削除します。 |
| 選択ページの前にページ挿入 | 選択ページの前に新ページを挿入します。 |
| 選択ページをアクティブにする | 選択ページを アクティブページ (eBeam システムからデータを受信するページ) に設定します。 |
| 次ページ | ミーティング内の次ページを表示します。ミーティングの最後のページが表示されている場合は選択できません。 |
| 前ページ | ミーティング内の前ページを表示します。ミーティングの最初のページが表示されている場合は選択できません。 |
| ページ指定 | 指定ページに移動するためのダイアログボックスを開きます。指定ページに移動するには、ページ番号を入力し「OK」をクリックします。 |
| 背景画像 | 背景画像 用のダイアログボックスを開きます。 |

ミーティング

「ミーティング」メニューの詳細は以下のとおりです：

| メニュー項目 | 記述 |
|--------------|---|
| ミーティングを開始 | ミーティング共有用のダイアログボックスを開きます。(ミーティングの主催と共有 、 ミーティング招待用 E メール の送信参照) 注意：このコマンドを選択するには、その前に eBeam Software が eBeam ハードウェアに接続されている必要があります。(eBeam Software と eBeam ハードウェアの接続 参照) |
| ミーティングに参加 | ミーティング参加用のダイアログボックスを開きます。(ミーティングへの参加 参照) |
| ミーティングに招待 | デフォルトの E メールアプリケーションを開きます。この E メールアプリケーション用アドレス帳から招待 Eメールの受信者を選択できます。(ミーティング招待用 Eメール の送信参照) 注意：このコマンドを使用するには、ミーティングが共有されている必要があります。(共有ミーティング 参照) |
| ミーティングをアーカイブ | 「ミーティングをアーカイブ」を選択すると、ダイアログボックスが開き、eBeam の新しいミーティングサーバ上でミーティングをアーカイブできます。(ミーティングのアーカイブ 参照) |

| メニュー項目 | 記述 |
|-------------|---|
| ミーティングを検索 | 「ミーティングを検索」を選択すると、ダイアログボックスが開き、eBeam の新しいミーティングサーバからミーティングを検索できます。(アーカイブされた eBeam ミーティングの検索参照) |
| 参加者 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 識別情報 — 選択された参加者に関する情報を表示したウィンドウを開きます。このウィンドウは次の情報を含みます：名前、役割（主催者または参加者）、注釈を付けられるかどうか、接続時間（時刻）、IP アドレス、ドメイン名、また、「ミーティングの開始」または「ミーティングに参加」ダイアログボックスの注釈メモ欄に入力したコメントなど。 ・ 「表示のみ」に設定 — 特定の参加者の注釈付けを停止します。その参加者はミーティング内で起こっていることをすべて表示できますが、ミーティングに注釈を付けることはできません。ただし、「参加者」表示でのチャットは可能です。このコマンドはミーティングの主催者のみ設定可能です。(表示と表示変更ボタン、eBeam チャットの使用参照) ・ 参加停止 — 共有ミーティングから特定の参加者の参加を停止します。このコマンドはミーティングの主催者のみ設定可能です。(ミーティングの主催と共有参照) ・ 全参加者を「表示のみ」に設定 — 全参加者の注釈付けを停止します。参加者はミーティング内で起こっていることをすべて表示できますが、ミーティングに注釈を付けることはできません。ただし、参加者表示でのチャットは可能です。このコマンドはミーティングの主催者のみ設定可能です。(表示と表示変更ボタン、eBeam チャットの使用参照) |
| 主催者と同一ページ表示 | <p>全参加者の表示ページを主催者と同一に設定します。このコマンドはミーティングの主催者のみ設定可能です。主催者がページ表示を切り替えると、全参加者のページも同時に表示が切り替わります。(ミーティングの主催と共有参照)</p> <p>同期ボタンは、表示変更ツールバーからも選択できます。(表示と表示変更ボタン参照)</p> |

参照：

[表示と表示変更ボタン](#)

[注釈ツール](#)

[ミーティングの主催と共有](#)

[ミーティング招待用 Eメールの送信](#)

[ミーティングへの参加](#)

[ミーティング主催者の役割](#)

[ミーティング参加者](#)

[eBeam チャットの使用](#)

ツール

「ツール」メニューの詳細は以下のとおりです：

| メニュー項目 | 記述 |
|----------------------|---|
| eBeam Hardware | <ul style="list-style-type: none"> ・ 検知 — eBeam ハードウェアの検知を試みます。(eBeam Software と eBeam ハードウェアの接続参照) ・ 設定 — eBeam ハードウェア設定用ダイアログボックスを開きます。(ポート設定の選択参照) ・ キャプチャエリア調整 — ホワイトボードモードの調整用ウィザードを開きます。このオプションは投影モードでは無効です。(調整参照) ・ ファームウェアのアップグレードをチェック — eBeam グループは、eBeam システムの向上に継続的に取り組んでいます。定期的に、eBeam ハードウェア専用のファームウェアを eBeam の Web サイトにリリースしています。このオプションにより、ファームウェアが最近リリースされたかどうかを確認し、必要に応じて、新しいファームウェアをダウンロードしてインストールすることができます。 ・ Bluetooth の構成 — eBeam System 3 Wireless システム専用の「Bluetooth の構成」ダイアログボックスを開きます。このオプションは他のシステムでは無効です。注意：eBeam System 3 Wireless のセンサーポッドは、通信を行う構成プログラムのために、USB ケーブルを介してコンピュータに接続されている必要があります。 ・ ホワイトボードのキャプチャ — eBeam Software をホワイトボードモードに切り替えます。(モードの選択参照) ・ フリップチャートのキャプチャ — eBeam Software をフリップチャートモードに切り替えます。(特定の eBeam システムバージョンのみでサポート) (モードの選択参照) ・ プロジェクター使用 — eBeam Software を投影モードに切り替えます。(モードの選択参照) ・ システムの接続解除 — eBeam Software とハードウェアの接続を解除し、ポートを解放します。 |
| ショートカットストリップ | 特定のページ操作をホワイトボードまたはフリップチャートから直接行えます。(ショートカットストリップの使用参照) |
| ホルダー設定 | ホルダー設定用ダイアログボックスを開きます。(描画線の幅とカラーの設定参照) |
| eBeam ミーティング選択 | eBeam ミーティング選択用のダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスで、ホワイトボードからデータを受信するミーティングを指定します。指定するには、プルダウンメニューからミーティングを選択し「OK」をクリックします。注意：このダイアログボックスに表示されるには、ミーティングは開いている必要があります。 |
| Microsoft NetMeeting | Microsoft NetMeeting を開きます。このコマンドを使用するには、Windows 対応コンピュータに Microsoft NetMeeting がインストールされている必要があります。(Microsoft NetMeeting 参照) |

ウィンドウ

「ウィンドウ」メニューの詳細は以下のとおりです：

| メニュー項目 | 記述 |
|--------|---|
| 重ねて表示 | すべての開いているミーティングを重ねて、カスケード表示します。 |
| 並べて表示 | すべての開いているミーティングを、縦方向または横方向に並べて、タイトル表示します。 |

| メニュー項目 | 記述 |
|-----------|--|
| <ミーティング名> | すべての開いているミーティングの名前を表示します。ここで選択されたミーティングは前面に表示されます。 |

ヘルプ

「ヘルプ」メニューの詳細は以下のとおりです：

| メニュー項目 | 記述 |
|---------------------|---|
| トピックの検査 | オンラインヘルプシステムを開きます。 |
| オンラインサポート | Web ブラウザを起動し、www.jp.e-beam.com のサポートページを開きます。 |
| 登録 | Web ブラウザを起動し、www.jp.e-beam.com の登録ページを開きます。 |
| FAQ | Web ブラウザを起動し、www.jp.e-beam.com の FAQ ページを開きます。 |
| ソフトウェア更新 | Web ブラウザを起動し、www.jp.e-beam.com のダウンロードページを開きます。 |
| 更新チェック | アプリケーションバージョン確認用のダイアログボックスを開きます。(ソフトウェア更新状況の確認参照) |
| システム診断 | テクニカルサポートから要請があった場合のみ使用します。 |
| システム情報 | システム情報を表示するウィンドウを開きます。 |
| eBeam ソフトウェアバージョン情報 | eBeam Software に関する情報を表示するウィンドウを開きます。このウィンドウを閉じるにはウィンドウ上をクリックします。 |

注意：FAQ、インストール、ソフトウェアアップデートなど、最新の情報を得るには、www.jp.e-beam.com を参照してください。

アプリケーションツールバー

eBeam Software のミーティングアプリケーションのアプリケーションツールバーは、画面の上部メニューバーの下に位置しています。



| ツールバーボタン | 記述 |
|----------|--|
| 新 | 現ミーティングに新ページを作成します。「ページ」メニューからも選択できます。現ミーティングにアクティブページ (eBeam システムからデータを受信しているページ) が含まれている場合は、新ページがアクティブページになります。複数ミーティングが開いている場合に、ミーティングが eBeam システムからデータを受信するように設定する方法に関する詳細は、「ツール」メニューの「eBeam ミーティングの選択」の記述を参照してください。 |

| ツールバーボタン | 記述 |
|-----------|--|
| 複製 | <p>選択ページを複製をし、そのページの後に新ページを挿入します。「<u>ページ</u>」メニューからも選択できます。</p> <p>現ミーティングが<u>アクティブページ</u>を含み、複製の対象がアクティブページである場合は、複製されたページがアクティブページになります。複数ミーティングが開いている場合に、ミーティングが eBeam システムからデータを受信するように設定する方法に関する詳細は、「<u>ツール</u>」メニューの「eBeam ミーティングの選択」の記述を参照してください。</p> |
| 削除 | <p>選択ページを削除します。「<u>ページ</u>」メニューからも選択できます。</p> |
| 印刷 | <p>選択ページを印刷します。「<u>ページ</u>」メニューからも選択できます。</p> |
| フルスクリーン | <p>メニューを非表示にし、現ページをフルスクリーンで表示します。標準モードに戻るには、再度「フルスクリーン」を選択します。「<u>表示</u>」メニューからも選択できます。</p> |
| ミーティングを開始 | <p>ミーティング共有用のダイアログボックスを表示します。<u>(ミーティングの主権と共有、ミーティング招待用 Eメールの送信参照)</u>「<u>ミーティング</u>」メニューからも選択できます。</p> <p>注意：このコマンドを選択するには、その前に eBeam Software が eBeam ハードウェアに接続されている必要があります。<u>(eBeam Software と eBeam ハードウェアの接続参照)</u></p> |
| ミーティングに参加 | <p>ミーティング参加用のダイアログボックスを開きます。<u>(ミーティングへの参加参照)</u>「<u>ミーティング</u>」メニューからも選択できます。</p> |
| 表示のみ | <p>特定の参加者の注釈付けを停止します。その参加者はミーティング内で起こっていることをすべて表示できますが、ミーティングに注釈を付けることはできません。ただし、参加者表示でのチャットは可能です。</p> <p>注意：このコマンドは、参加者 / チャット表示が表示されている場合のみ選択可能です。</p> <p><u>(表示と表示変更ボタン、eBeam チャットの使用参照)</u>「<u>ミーティング</u>」メニューからも選択できます。</p> <p>注意：このコマンドはミーティングの主催者のみ設定可能です。<u>(ミーティングの主権と共有参照)</u></p> |
| 全員表示のみ | <p>全参加者の注釈付けを停止します。参加者はミーティング内で起こっていることをすべて表示できますが、ミーティングに注釈を付けることはできません。ただし、参加者表示でのチャットは可能です。</p> <p>注意：このコマンドは、参加者 / チャット表示が表示されている場合のみ選択可能です。</p> <p><u>(表示と表示変更ボタン、eBeam チャットの使用参照)</u>「<u>ミーティング</u>」メニューからも選択できます。</p> <p>注意：このコマンドはミーティングの主催者のみ設定可能です。<u>(ミーティングの主権と共有参照)</u></p> |
| 参加停止 | <p>共有ミーティングから特定の参加者の参加を停止します。</p> <p>注意：このコマンドは、参加者 / チャットが表示されている場合のみ選択可能です。<u>(表示と表示変更ボタン、eBeam チャットの使用参照)</u> <u>ミーティング</u>からも選択できます。</p> <p>注意：このコマンドはミーティングの主催者のみ設定可能です。<u>(ミーティングの主権と共有参照)</u></p> |

アプリケーションツールバー環境設定

アプリケーションツールバー用の環境設定では、アイコンのみ表示、テキストのみ表示、または両方表示のいずれかを選択できます。

ツールバー用の環境設定を行うには：

1. 「編集」メニューから「設定」を選択します。
「設定」ダイアログボックスが表示されます。

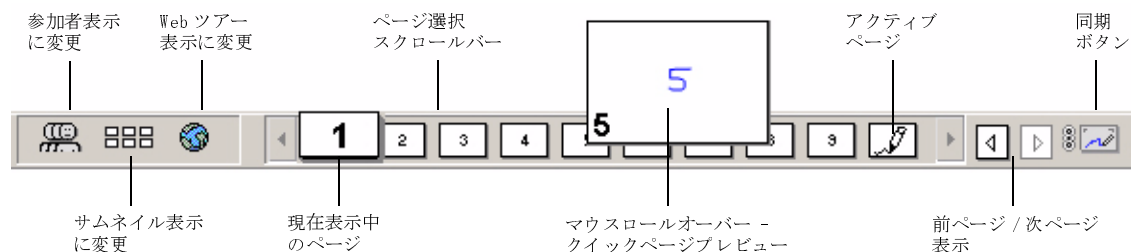
2. 「環境設定」タブをクリックします。、適宜、アイコンとテキスト用のチェックボックスにチェックマークを付けます。
3. 適宜アイコンとテキスト用のチェックボックスにチェックマークを付けます。
4. 「OK」をクリックします。

表示と表示変更ボタン

表示エリアは、eBeam Software のミーティングアプリケーションの中心です。以下の表示タイプを選択できます。

- ・ 参加者表示 — 共有ミーティングにログインしている参加者の名前を表示します。参加者はオンラインでチャットできます。(eBeam チャットの使用参照)
- ・ サムネイル表示 — ミーティング内の全ページのサムネイルを表示します。右側のスクロールバーを使って全サムネイルを表示できます。サムネイルを選択すると、そのページがページ表示に表示されず。
- ・ Web ツアー表示 — Web ページにアクセスできます。ミーティングの主催者は Web ツアー を主催できます。
- ・ ページ表示 — 1 度にミーティングページを 1 ページずつ表示します。この表示では、ホワイトボード上の描画中のストロークをそのまま見られます。

表示変更ツールバー（下図）を使用し、表示を変更できます。



表示変更ツールバーの詳細は以下のとおりです：

| コントロール | 記述 |
|---------------|--|
| 参加者表示に変更 | 参加者表示に変更します。(eBeam チャットの使用参照) |
| サムネイル表示に変更 | サムネイル表示に変更します。 |
| Web ツアー 表示に変更 | Web ツアー表示に変更します。(Web ツアー参照) |
| ページ選択スクロールバー | ミーティング内の全ページ用のページボタンを表示します。現在表示中ページのボタンは他のボタンより大きく表示されます (例：上図のページボタン「1」)。ミーティング内のページ数が多い場合は、スクロール用矢印が表示されます。(ミーティングページの並べ替え参照) 注意：マウスポインタをページボタン上に移動すると、そのページのサムネイルがポップアップ表示されます (例：上図のページ「5」)。この機能により、ページ表示でページを表示する前に、ページ内容を見られます。マウスポインタをページボタンから離すと、ポップアップ表示が閉じます。 |
| 現在表示中のページ | ページ表示に現在表示中のページを表します。現在表示中ページのボタンは他のボタンより大きく表示されます。(ミーティングページの並べ替え参照) |

| コントロール | 記述 |
|---------------------------|--|
| マウスロールオーバー - クイックページプレビュー | サムネイルを表示します。 マウスポインタをページ選択スクロールバーのページ上にロールオーバーし、しばらくするとページのサムネイルがポップアップ表示されます。マウスポインタをページボタンから離すと、ポップアップ表示が閉じます。マウスポインタをページボタンから離すと、ポップアップ表示が閉じます |
| アクティブページ | 現在 eBeam ハードウェアからホワイトボードのデータを受信しているページに、アクティブページアイコンを表示します。(「 ページ 」メニューの 選択ページをアクティブにする 、 ミーティングページの並べ替え 参照) |
| 前ページ / 次ページ表示 | ミーティング内の前または次ページを表示します。ミーティングの最初のページが表示されている場合は、前ページボタンは選択できません。また、ミーティングの最後のページが表示されている場合は、次ページは選択できません。 |
| 同期ボタン | 全参加者の表示ページを主催者と同一に設定します。同期機能に関する詳細は、 ミーティング主催者の役割 を参照してください。 |

ミーティングページの並べ替え

ページ選択スクロールバーでページボタンをマウスでドラッグ移動することにより、ミーティングページを並べ替えることができます。

ページをマウスでドラッグすると、スクロールバーにインジケータ矢印が現れ、ページが挿入される場所を示します。ページが挿入されると、ミーティングページのページ番号が更新されます。

注意：ページ移動は元に戻せません。

参照：

[eBeam チャットの使用](#)

[ミーティング主催者の役割](#)

[ミーティング参加者](#)

[Web ツアー](#)

描画線の幅とカラーの設定

ホルダー設定用ダイアログボックスでは、ホワイトボード上の eBeam マーカの描画線が eBeam Software のミーティングアプリケーション画面でどのように表示されるかを定義します。

eBeam Software のミーティングアプリケーションでは、デフォルトで描画線の幅とスクリーンカラーが設定されていますが、その値はいつでも変更できます。

描画線の幅とカラーを変更するには：

1. 「[ツール](#)」メニューから「ホルダー設定」を選択します。
2. 各電子ペン用に線幅を選択します。
「ホルダー設定」ダイアログボックスでは、各電子ペン用の絵と線幅のセットが表示されます。

注意： コンピュータ画面に表示される線幅は、ホワイトボード上の実際のマーカの線幅と異なることがあります。

- 各電子ペン用にスクリーンカラーを選択します。
カラー設定用ダイアログボックスが表示されます。
スクリーンカラーは、マーカのカラーまたはマーカホルダーのカラーと一致する必要はありません。カスタムカラーを作成したり、基本色パレットから選択することもできます。
「ホルダー設定」ダイアログボックスのスクリーンカラーバーでは、各ホルダー用に選択したカラーが表示されます。
ホルダーカラーをデフォルトに戻すには、「デフォルト復帰」ボタンをクリックします。
- 「OK」をクリックし、設定を保存します。

既存の描画線の幅とカラーの変更

既に記録された描画線の幅とカラーを変更するには：

- 「ツール」メニューから「ホルダー設定」を選択します。
- 希望の幅またはカラーを選択します。
- 「描画済みストロークに適用」を選択し、設定の適用範囲（現在のページのみ、またはミーティングの全ページ）を指定します。
- 「OK」をクリックし、変更を適用します。
注意：描画線の幅とカラーの変更は、元に戻せません。

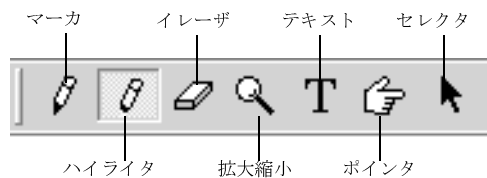
注釈ツール

注釈ツールパレットにあるツールを使用すると、コンピュータのマウスとキーボードを使ってホワイトボード上のミーティングページに注釈を付けることができます。

注釈ツールの主な用途は以下のとおりです：

- ホワイトボード上の重要な箇所にハイライトを付ける
- ホワイトボード上の描画の意味を説明するために、テキストメモを追加する
- 共有ミーティング中にリモート参加者が特に注意すべき事柄にハイライトを付ける（共有ミーティングでの注釈ツールの使用参照）
- ミーティングページを作成する（eBeam Software のミーティングアプリケーションを投影モードで使用中的場合）（ホワイトボードモードと投影モードの併用参照）

描画ツールバー上の各ツールのアイコンと詳細は以下のとおりです：



| ツール | 記述 |
|-----|---|
| マーカ | 表示されているページ上に、フリーハンドで4色のうちのいずれかのカラーで描画します。マーカツール選択時に表示されるパレットから、カラーを選択します。 |

| ツール | 記述 |
|-------|--|
| ハイライト | 表示されているページ上に、フリーハンドで4色の透明色のうちのいずれかのカラーでハイライトします。ハイライトツール選択時に表示されるパレットから、カラーを選択します。 |
| イレーザ | ホワイトボード（表示ページ）上の、eBeam マーカでの描画と注釈ツールを使用した描画の両方とも消去できます。イレーザツール選択時に表示されるパレットから、イレーザのサイズを選択します。 |
| 拡大縮小 | 表示ページのサイズを拡大または縮小します。拡大縮小範囲は -200 ~ 200% です。Shift キーを押すと、拡大から縮小に変わります。ズームツール選択時に表示されるプルダウンメニューから、拡大縮小率を選択することもできます。 |
| テキスト | コンピュータで使用可能なフォント、サイズ、カラー指定で、ミーティングにテキストメモを追加します。テキストツール選択時に表示されるパレットから、フォント、サイズ、カラーを選択します。 |
| ポインタ | ミーティングウィンドウ内のデータをポイントします。各参加者のポインタは異なるカラーで表示されます。 ポインタツールは、共有ミーティングのみで使用できます。 ポインタツール選択時に表示されるパレットから、ポインタ方向（左右、上下）を選択します。パレット上の「ポインタを隠す」ボタンをクリックし、ポインタツールを非表示にすることもできます。 |
| セレクト | 選択用に長方形を描き、その長方形で囲まれた部分をコピーします。コピー部分は他のアプリケーションに貼り付けることができます。 |

共有ミーティングでの注釈ツールの使用

オンラインミーティング中（[共有ミーティング参照](#)）は、参加者はミーティングページに注釈を付けられません。この注釈はミーティングのすべての参加者から見えます。

主催者によってミーティングの同期が設定されていない場合、また参加者が「表示のみ」に設定されていない場合は、参加者はミーティング内のすべてのページに注釈付けできます。（[ミーティング主催者の役割](#)、[ミーティング参加者参照](#)）

ミーティングが主催者によって同期設定されている場合は、参加者は表示ページのみ注釈を付けられません。参加者が主催者によって「表示のみ」に設定されている場合は、その参加者はミーティングに注釈付けることはできません。

ズームツールは常に表示されていますが、ページの拡大縮小は他の参加者には見えません。

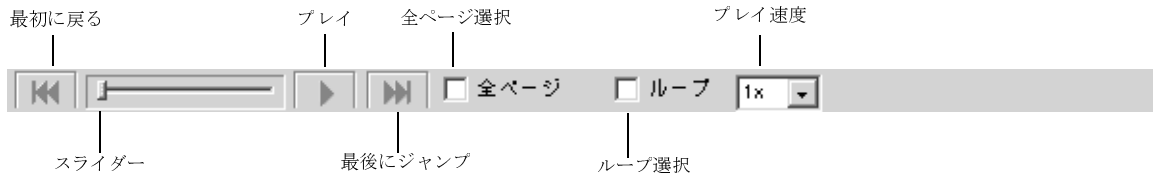
プレイコントロール

プレイコントロールツールバーを使用すると、ミーティングをムービー同様に再生できます。ミーティングは、ストロークごとに速度を変えて再生できます。再生対象は、現在のページまたは全ページに限られません。

プレイコントロールの主な用途は以下のとおりです：

- ・ ミーティングのプロセスを表示する
- ・ ミーティング内容から分岐する — ミーティングの特定の場所まで戻り、ページの複製を作成できます。複製ページは、ミーティングの特定場所のデータを含み、かつ新規ページを作成するため、手でそこまでのプロセスを再作成する必要もなく、オリジナルのミーティングページをそのままにした状態で、他の考えや構想を練ることができます。

プレイコントロールツールバー上の各コントロールの表示と詳細は以下のとおりです：



| ツール | 記述 |
|---------|--|
| 最初に戻る | ミーティングの最初のページ（マークで描画を始める前の白紙ページ）に戻ります。 |
| スライダー | スライダーをスライドすることにより、ミーティングページを前方向または後方向に速送りして表示したり、ミーティングの特定場所にジャンプしたりできます。 |
| プレイ | ミーティングを最初（白紙ページ）から最後まで再生します。再生中はプレイボタンは中止ボタンに変わります。再生を中止するには、中止ボタンをクリックします。（ プレイ速度参照 ） |
| 最後にジャンプ | ミーティングの最後のページへジャンプします。 |
| 全ページ | プレイコントロールツールバーでの操作の対象範囲を指定します。「全ページ」選択時にプレイボタンをクリックすると、ミーティングの全ページが再生され、非選択の場合は、現在表示されているページのみ再生されます。 |
| ループ | ミーティングを最初（白紙ページ）から最後まで再生し、その後、最初から最後までを再生を繰り返します。再生中はプレイボタンは中止ボタンに変わります。再生を中止するには、中止ボタンをクリックします。 |
| プレイ速度 | ミーティングのプレイ速度を指定します。速度範囲は 0.5x ~ 8.0x です。 |

背景画像

コンピュータのクリップボードにコピーされているファイル、スクリーンキャプチャ、データなどを、現在のページ表示に表示されているページの背景画像としてインポートできます。背景画像は常に表示ページの背景として機能し、ホワイトボード上の描画、メモなどは背景画像の前面に表示されます。

注意：共有ミーティングでは、背景画像は全参加者の画面に表示されます。

背景画像をロード / 除去するには：

1. 背景画像を取り込む先のミーティングページを選択します。
2. 「[ページ](#)」メニューから「背景画像」を選択、またはファイルをページにドラッグしドロップします。
以下のコマンドを含む背景画像用ダイアログボックスが表示されます。

| ボタン | 記述 |
|--------------|---|
| 画像をロード | 「ファイルを開く」ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスで、背景画像としてインポートするファイルを選択し、「OK」をクリックします。 インポートされるファイルが、背景画像ダイアログボックスのプレビューウィンドウに表示されます。「OK」をクリックし、ファイルをロードします。 (背景画像のファイル形式 、 Excel スプレッドシートをロード 、 PowerPoint プレゼンテーションをロード 参照) |
| クリップボードからロード | コンピュータのクリップボードにコピーされているデータを、背景画像としてロードします。コンピュータのクリップボードにデータがない場合は、このボタンは選択できません。 コンピュータのクリップボードのデータが、背景画像ダイアログボックスのプレビューウィンドウに表示されます。「OK」をクリックし、ファイルをロードします。 注意：通常、スクリーンをキャプチャしたり、アプリケーション内でデータをコピーすると、コンピュータのクリップボードにそのデータがロードされます。 |

| ボタン | 記述 |
|-------------|--|
| スクリーンをキャプチャ | 左マウスボタンを押しながらドラッグすると長方形が作成され、その長方形で囲まれたスクリーン上のデータをキャプチャします。 注意：「スクリーンをキャプチャ」ボタンをクリックすると、 <u>eBeam Software のミーティングアプリケーション</u> の画面が最小化します。 マウスボタンを離すと、キャプチャされたエリアが背景画像ダイアログボックスのプレビューウィンドウに表示されます。「OK」をクリックし、キャプチャエリアを背景画像としてロードします。 |
| 画像を除去 | 表示ページから背景画像を除去します。ホワイトボード上の描画や注釈メモはページ上に残ります。 |
| 縦横比を維持 | 背景画像の縦横比を維持するかどうかを指定します。このコマンドが選択されている場合は、オリジナル画像の縦横比を維持したままで画像がロードされます。選択されていない場合は、ページサイズに合わせて縦横比を変換した画像がロードされます。 |

注意：「画像をロード」、「クリップボードからロード」、「スクリーンをキャプチャ」コマンド選択の際は、新ページ作成ではなく、現在表示されているページの背景として画像がロードされます。これらのコマンドを選択する場合は、前にロードした背景画像を意図せず上書きしないように注意してください。

参照：

背景画像のファイル形式

Excel スプレッドシートをロード

PowerPoint プレゼンテーションをロード

背景画像のファイル形式

背景画像として以下のファイル形式がサポートされています：

- ・ ビットマップ (*.bmp)
- ・ グラフィックファイル (*.gif、*.jpg、*.ico、*.emf、*.wmf)
- ・ Excel スプレッドシート (*.xls)
- ・ PowerPoint プレゼンテーション (*.ppt)
- ・ Word ドキュメント (*.doc、*.rtf)

サポートされていない形式のファイルのロードを指定すると、ファイル形式を表すアイコンとファイル名が表示されますが、ファイルをページにロードすることはできません。

Excel スプレッドシートをロード

Excel スプレッドシートを背景画像としてロードするには：

1. 「ページ」メニューから「背景画像」を選択し、「画像をロード」ボタンをクリックします。(Excel (*.xls) ファイルをロード)

「画像をロード」に関する詳細は、背景画像を参照してください。

Excel スプレッドシート (*.xls) ファイルをページ上にドラッグ&ドロップし、ファイルを背景画像としてロードすることもできます。

注意： グラフを含む Excel スプレッドシートはロードできません。

2. Excel スプレッドシートファイルに複数のワークシートが含まれている場合は、表示される Excel スプレッドシートインポート用のダイアログボックスで、以下のロード対象を指定します。
 - ・ 単一ワークシートのデータをロードし背景ページに使用
 - ・ 複数のワークシートをロードし、新ページに使用
3. 単一ワークシートのデータのみロードする場合は、シートとセル範囲を指定します。
ロードする前に「プレビュー表示」ボタンをクリックし、背景画像のプレビューを表示できます。
4. 複数のワークシートをロードする場合は、使用シートを指定します。ロードする画像のうち、最初の画像を既存ミーティングの最後のページにロードすることもできます。

ワークシートからデータをロードする場合、データ範囲（行数と列数）には制限があります。データ範囲は、ワークシートの数（単一ワークシートまたは複数）やコンピュータにより異なります。

PowerPoint プレゼンテーションをロード

PowerPoint プレゼンテーションを背景画像としてロードするには：

1. 「ページ」メニューから「背景画像」を選択し、「画像をロード」ボタンをクリックして PowerPoint (*.ppt) ファイルを指定します。
「画像をロード」に関する詳細は、[背景画像](#)を参照してください。
PowerPoint プレゼンテーション (*.ppt) ファイルをページ上にドラッグ & ドロップし、ファイルを背景画像としてロードすることもできます。
複数ページ背景用ダイアログボックスが現れ、PowerPoint プレゼンテーションのファイルサイズとオプションが表示されます。
2. プレゼンテーションのどの部分を背景画像としてミーティングにロードするかを決め、以下のロード対象を指定します。
 - ・ 複数の画像をロードし、新ページに使用 — ユーザ定義の範囲内のスライドをロードします。
 - ・ 単一画像をロードし、現在のページの背景に使用 — 選択スライド番号の画像がロードされます。
3. 「OK」をクリックします。

PowerPoint プレゼンテーションの画質

高画質の画像が含まれる PowerPoint のスライドを eBeam Software にインポートする際、PowerPoint は、通常、画像を低画質の画像フォーマットに変換することにより、ファイルサイズを縮小します。つまり、eBeam Software で表示される画像は、元の PowerPoint のスライドほどくっきりと明瞭ではありません。

ファイルを eBeam Software にインポートする際に元の PowerPoint のスライドの高画質を保持するように指定することができます。手順は以下のとおりです。

1. 「編集」メニューから「設定」を選択します。
2. 「環境設定」タブをクリックします。
3. 「PowerPoint プレゼンテーションをインポート」の下にある「高画質の画像をインポート」のチェックを外します。

「高画質の画像をインポート」にチェックすると、ファイルを eBeam Software にインポートする際に元の PowerPoint のスライドの高画質が保持されます。ただし、このオプションをチェックすることにより、PC のメモリの消費量が増え、ミーティングの保存、共有、および参加に時間がかかるようになります。

ファイルのインポート / エクスポート / ファイル保存

ファイルのエクスポート

PDA ミーティングのインポート

送信

画像サイズ

ファイル保存

別名保存 / 送信用のファイル形式

ファイルのエクスポート

eBeam ファイルを異なるファイル形式で保存するには：

1. 「ファイル」メニューから「別名で保存」を選択します。
別名保存用ダイアログボックスが表示されます。
2. 「ファイルの種類」プルダウンメニューからファイル形式を選択します。
選択されたファイル形式用に特定のページオプションがある場合は、形式が選択された際に「ファイルの種類」プルダウンメニューの下に表示されます。
3. 「保存」をクリックします。

サポートされているファイル形式に関する詳細は、別名保存 / 送信用のファイル形式を参照してください。

PDA ミーティングのインポート

PDA ミーティングをインポートすることにより、eBeam データベースを Palm からコンピュータにインポートできます。Palm(™) 用 eBeam Software に関する詳細は、www.jp.e-beam.com を参照してください。

PDA データベースをインポートするには：

1. 「ファイル」メニューから「PDA ミーティングをインポート」を選択します。
 2. ユーザ名を選択します。
PDA ソフトウェアによっては、1 台の PDA に複数のユーザを設定できるため、検索対象のユーザディレクトリを指定する必要があります。
 3. PDA ディレクトリのインストール時にデフォルト設定のディレクトリを指定していない場合は、「参照」ボタンをクリックし、ディレクトリの場所を変更指定する必要があります。適宜、インポート元のディレクトリを選択します。
ディレクトリが指定されると、PDA データベース内のすべての eBeam ミーティングファイルが表示されます。
 4. 一覧からインポート対象のファイルを選択します。
 5. 「OK」をクリックします。
-

送信

eBeam Software ミーティングファイルを、Microsoft Exchange などの MAPI 対応の E メールアプリケーションを使用して、E メール添付ファイルとして送信できます。

1. 「ファイル」メニューから「送信」を選択します。
送信用ダイアログボックスが表示されます。
2. ファイル形式とページ範囲を選択します。
サポートされているファイル形式に関する詳細は、別名保存 / 送信用のファイル形式を参照してください。
3. 「OK」をクリックします。
eBeam Software は、MAPI 対応の E メールアプリケーション内で、eBeam のミーティングファイルを添付ファイルとした、新規メッセージ用の E メールを開きます。E メールアプリケーション内のアドレス帳を使用して宛先を入力し、通常の E メール同様に送信します。

eBeam ミーティングは、E メール添付ファイルとして適しているほとんどのファイル形式（HTM を除く）で保存できます。HTM ファイルの場合は、保存時にミーティングページを含むフォルダを作成し、eBeam Software は E メールメッセージにフォルダを添付できないため、使用できません。

参照：

別名保存 / 送信用のファイル形式

画像サイズ

「設定」ダイアログボックス内の「画像サイズ」タブを使用すると、「ファイル：別名で保存」、または「ファイル：送信」で保存したミーティングのファイルサイズを変更できます。

調整済みホワイトボードのサイズが変更すると、ミーティングページの画像サイズも変更します。「縦横比を維持」オプションが選択されている場合は、ホワイトボードを再調整し描画エリアが拡大すると、画像も新しい幅と高さに合わせて拡大します。

エクスポート用にサポートされているファイル形式に関する詳細は、別名保存 / 送信用のファイル形式を参照してください。

画像品質を変更するには：

1. 「編集」メニューから「設定」を選択します。
 2. 「画像サイズ」タブをクリックします。
 3. 画像の幅と高さを（スクロールまたは入力し）指定します。
 4. 「縦横比を維持」で幅と高さの比率を保持するかどうか指定します。
注意：このオプションはデフォルト設定で選択されています。このオプションが選択されていると、画像の幅または高さを変更すると、自動的に高さまたは幅も変更されます。画像の縦横比は、調整済みホワイトボードの縦横比に対応しています。
 5. 「OK」をクリックし、変更を保存します。
 6. デフォルト設定に戻すには、「デフォルト復帰」をクリックします。
注意：ホワイトボード上の画像が縦または横方向に伸びている場合は、「縦横比を維持」が選択されているかどうか確認してください。
-

ファイル保存

ファイル保存機能を使用すると、停電またはノート型パソコンの電池切れなどの理由で電源が切断された場合でも、ミーティングデータの損失を回避できます。

ファイル保存用のデフォルトでは、10分ごとのバックアップ作成が設定されています。

ファイル保存用の設定を変更するには：

1. 「編集」メニューから「設定」を選択します。
2. 「環境設定」タブをクリックします。
3. ファイル保存機能のオン/オフを切り替えるには、「回復ファイルの保存」左横のチェックボックスを選択/非選択にします。
4. 保存時間を変更する場合は、「回復ファイルの保存」オプションを選択し、希望する時間（分）を選択します。

別名保存 / 送信用のファイル形式

ミーティングの別名保存または送信用に、以下のファイル形式がサポートされています：

- ・ eBeam Software ファイル (*.wbd)
- ・ PDF (*.PDF)
- ・ ベクトル PDF (*.PDF)
- ・ HTML (*.HTM) (保存のみ)
- ・ 24ビット、ビットマップ (*.BMP)
- ・ 256色ビットマップ (*.BMP)
- ・ モノクロビットマップ (*.BMP)
- ・ EPS モノクロ (*.EPS)
- ・ JPEG (*.JPG)
- ・ TIFF (*.TIF)
- ・ メタファイル (*.emf)
- ・ PowerPoint プレゼンテーション (*.ppt)
- ・ PowerPoint ショー (*.pps)

参照：

[送信](#)

[画像サイズ](#)

[ファイル](#)

eBeam Software の自動起動

自動起動は、ホワイトボードモードの eBeam Software の ミーティングアプリケーション で使用され、eBeam Software の ミーティングアプリケーション を終了してアプリケーションウィンドウを閉じますが、eBeam システムはホワイトボードのペンの音や筆づかいを「聞き」続けます。

eBeam システムがホワイトボードへの書き込みを検知すると、[eBeam Software のミーティングアプリケーション](#)が開き、すぐにデータのキャプチャが開始されます。

自動起動を使用したくない場合は、[eBeam Software のミーティングアプリケーション](#)を閉じた後、Windows のタスクバーメニューの「システムを無効にする」または「終了」をクリックします。

自動起動は、投影モードからは使用できません。

参照：

[eBeam Software と eBeam ハードウェアの接続](#)

[モードの選択](#)

共有ミーティング

eBeam ミーティングとは

eBeam ミーティングとは、[eBeam Software のミーティングアプリケーション](#)で作成され、ホワイトボード上の描画や注釈メモなどを記録した、1 ページまたは複数ページのファイル (*.wbd) です。

eBeam ミーティングには 1 人または複数のユーザが参加できます。ユーザは同じ場所、同じビルの違う階、または違う国など、どこからでも参加できます。

共有ミーティングとは

共有ミーティングとは、ローカルイントラネットまたはインターネット（ワールドワイドウェブ）を介してブロードキャストされたミーティングを指します。

ミーティングの主催者は eBeam システム（eBeam Software と eBeam ハードウェア）を使用して、ネットワークを介してミーティングをブロードキャストします（[ミーティングの主催と共有参照](#)）。リモートの参加者は、[eBeam Software のミーティングアプリケーション](#)または Web ブラウザを使用してミーティングにログイン（参加）します（[ミーティングへの参加参照](#)）。

ミーティングがリアルタイムでブロードキャストされるため、参加者はホワイトボード上に描画中の過程をそのまま見られます。

ミーティングの主催者の設定により、参加者はミーティングページに注釈メモを付けたり、重要な項目をハイライトしたりできます。これらのホワイトボードへの注釈はミーティング主催者と他の参加者からも見えます。

注意：ミーティング主催者が、リモート参加者（主催者のローカルネットワークファイアウォールの外に位置しているユーザ）に共有ミーティングへのアクセスを設定するには、ミーティングサーバがインターネット上にある必要があります。eBeam は現在、eBeam システムのユーザが利用できるミーティングサーバを提供しています。

ミーティング関連トピック：

[ミーティングの主催と共有](#)

[複数ミーティングの主催](#)

[ミーティング招待用 Eメールの送信](#)

[ミーティングへの参加](#)

[招待Eメールの受諾](#)

[ミーティングのアーカイブ](#)

[アーカイブされた eBeam ミーティングの検索](#)

[ミーティング主催者の役割](#)

[ミーティング参加者](#)

[eBeam チャットの使用](#)

[Web ツアー](#)

[Microsoft NetMeeting](#)

ミーティングの主催と共有

以下にイントラネットまたはインターネットを介してミーティングを主催 / 共有する方法を説明します。

ミーティングをイントラネットで共有する場合は、そのイントラネット内のユーザのみミーティングに参加できます。(eBeam サーバを使用して) ミーティングをインターネットで共有する場合は、インターネット上のどのユーザもミーティングに参加できます。

注意：ミーティングを共有するには、eBeam ハードウェアに接続している必要があります。
また、ネットワークでプロキシサーバを使用している可能性がある場合は、[プロキシサーバの設定](#)を参照してください。

共有ミーティングを主催するには：

1. 「[ミーティング](#)」メニューまたは[アプリケーションツールバー](#)から、「ミーティングを開始」を選択します。
ミーティング共有用のダイアログボックスが表示されます。
 2. 「ミーティング情報」欄に適宜、必要事項を入力します。
 - ・ ミーティング名 — 「ミーティングに参加」ダイアログボックスに表示される名前です。ミーティング名は、ここで変更されるまで同一名が使用されます。ミーティング名は半角英数字 20 バイトまで入力可能です。
 - ・ 主催者名 — 参加者 / チャット表示で表示される名前です。(eBeam チャットの使用参照)
 - ・ メモ — 任意のメモ、コメントを入力します。
 - ・ ミーティング名を公開 — 「ミーティングに参加」ダイアログボックス ([ミーティングへの参加参照](#))、または [www.jp.e-beam.com](#) の「ミーティング」ページから、ミーティングに参加しようとしているネットワーク上のユーザに、ミーティング名を公開します。
主催者がミーティング名を公開しない場合は、参加者はミーティング名を入手し「ミーティングに参加」ダイアログボックスで手動で入力する必要があります。
 - ・ パスワード / 確認 / パスワード使用 — パスワードが設定されている場合は、「パスワード使用」を選択し、「パスワード」と「確認」欄の両方に同一パスワードを入力します。
パスワードは半角英数字で 6 ~ 20 バイトである必要があります。
 - ・ ミーティング招待状を送る — コンピュータ内の E メールアプリケーションからミーティングの招待用 E メールを送ります。このオプションにチェックマークを付け、「開始」ボタンをクリックすると、
-

招待 E メール送信用のダイアログボックスが表示されます。(ミーティング招待用 Eメールの送信参照)

- ・ サーバー上でミーティングをアーカイブ — アーカイブされたミーティングでは、あるユーザの eBeam ミーティングを他の eBeam ユーザ が検索、表示、ダウンロード、編集、削除することが可能です(可能となる操作は、そのユーザの選択したアーカイブ権限に基づきます)。「サーバー上でミーティングをアーカイブ」にチェックが付けられている場合、「共有」ボタンをクリックすると「ミーティングをアーカイブ」画面が開きます。(ミーティングのアーカイブ参照)

注意：

- ・ 「共有」ボタンをクリックして「ミーティングをアーカイブ」画面が表示されている間は、ユーザが選択したアーカイブパラメータは保存されていません。「ミーティングの終了」ボタンをクリックした時点で保存が行われます。
- ・ ミーティングの間、ユーザは「ミーティング」メニューから「ミーティングをアーカイブ」を選択することで、必要に応じてそのミーティングのアーカイブ(またはパラメータの変更)が可能です。
- ・ 「ミーティングをアーカイブ」のチェックボックスにチェックが付けられていない場合、ミーティングの終了時に、サーバー上でミーティングをアーカイブするよう求められます。

3. 「サーバ情報」欄でミーティングを主催するサーバを選択します。

プルダウンメニューには、eBeam サーバと以前サーバー一覧に追加したサーバ名が表示されます。(ミーティングサーバの追加参照)

注意： Windows 対応コンピュータからミーティングを主催する場合は、「このミーティング主催には主催者の PC を使用」を選択し、ポート番号を入力します。ほとんどの場合、デフォルトのポート値「80」が最適です。

4. ミーティング参加者にミーティング名、ミーティング時刻、パスワード(必要な場合)を通知します。(ミーティング招待用 Eメールの送信参照)

5. 「開始」をクリックします。

これで指定ミーティングサーバ使用のミーティングが、共有ミーティングとしてネットワーク上でアクセス可能になります。

注意：ミーティング参加を試みているユーザから、「ミーティングに参加」ダイアログボックスでミーティング名が見えない場合は、ミーティングの主催者と参加者はプロキシサーバの設定を確認する必要があります(プロキシサーバの設定参照)。また、主催者は、「ミーティングを開始」ダイアログボックスで「ミーティング名を公開」が選択されていることを確認する必要があります。

参照：

[ミーティングサーバの追加](#)

[プロキシサーバの設定](#)

[複数ミーティングの主催](#)

[ミーティング招待用 Eメールの送信](#)

[ミーティングへの参加](#)

[ミーティングのアーカイブ](#)

[アーカイブされた eBeam ミーティングの検索](#)

ミーティングサーバの追加

ミーティングを主催、またはミーティングに参加するには、まずミーティングサーバを選択する必要があります。サーバ情報はミーティング主催 / 参加のつど入力できます。また、頻繁に使用するサーバの一覧を作成しておき、主催 / 参加時にその一覧から選択することもできます。

ミーティングサーバを一覧に追加するには：

1. 「ミーティング」メニューまたはアプリケーションツールバーから、「ミーティングを開始」または「ミーティングに参加」を選択します。
2. 「ミーティングを開始」または「ミーティングに参加」ダイアログボックスの、「サーバ」または「サーバ情報」欄で、サーバプルダウンメニュー横のサーバボタンをクリックします。
「ミーティングサーバ」ダイアログボックスが表示されます。
3. 「追加」ボタンをクリックします。
4. 一覧に追加するサーバのサーバ名、DNS 名または IP アドレスとポート番号を入力します。
注意：デフォルトポート番号は「80」です。
5. 「OK」をクリックします。
新サーバがミーティングサーバ一覧に追加されます。

参照：

プロキシサーバの設定

プロキシサーバの設定

社内でプロキシサーバを使用している場合は、コンピュータから eBeam サーバ（ネットワーク上で会社のファイアウォールの外）上のミーティングにアクセスするには、プロキシサーバを使用可能にし、プロキシサーバ設定を行なう必要があります。

「設定」ダイアログボックスで HTTP プロキシサーバ用の設定を行います。個々のワークステーションとインターネットの中間に位置するプロキシサーバは、インターネットを使用する際に必要となる、セキュリティやその他の管理機能を会社に提供します。

プロキシサーバを設定するには：

1. 「編集」メニューから「設定」を選択します。
2. 「プロキシサーバ」タブをクリックします。
3. プロキシサーバの設定には以下のオプションがあります。

| 設定オプション | 操作 |
|---------|---|
| 自動設定 | <ul style="list-style-type: none">・ プロキシサーバを自動的に検出：ローカルネットワークの DNS または DHCP サーバのいずれかからプロキシサーバ情報を入手することによってプロキシサーバとの接続を確立します。・ 設定スクリプトを使用：あらかじめ定義されたネットワーク設定スクリプト（IS 部門で提供）を使用してプロキシサーバとの接続を確立します。スクリプトファイルの URL を「Address」のテキストボックスに入力する必要があります。アドレスは、http://myserver:9090/proxy.pac などです。 |
| 手動設定 | プロキシサーバの DNS 名または IP アドレスとポート番号を入力します。 |

| 設定オプション | 操作 |
|-----------|---|
| 認証 | 「認証」では、「認証を使用 (Basic のみ)」を選択し、ネットのワーク用ユーザ ID とパスワードを入力します。ほとんどの場合、プロキシサーバ経由でインターネット上のミーティングにアクセスできます。 |
| IE の設定を使用 | 「IE の設定を使用」では、コンピュータの Internet Explorer のプロキシサーバの設定を確認することにより、プロキシサーバの設定を入手します。 |
| その他 | IS 部門に問い合わせないとプロキシサーバ設定用の情報を入手できないことがあります。自分でプロキシサーバ設定用の情報を入手するには、次の 2 つの方法があります。 <ul style="list-style-type: none"> ・ Windows 対応コンピュータ : Netscape Navigator では、「編集」メニューから「環境設定」を選択し、「詳細」をクリックし、「プロキシ」をクリックします。手動プロキシ設定が選択されている場合は、「表示」ボタンをクリックします。HTTP の下に表示されているプロキシサーバのアドレスとポート番号を入手します。 ・ 「インターネット」コントロールパネルを選択し、「詳細設定」タブをクリックし、「ファイアウォール」アイコンをクリックし、「プロキシサーバ」欄から、プロキシサーバのアドレスとポート番号を入手します。 |

上記の手順に従ってもプロキシサーバ情報を入手できない場合は、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

4. 「OK」をクリックします。

複数ミーティングの主催

eBeam Software のミーティングアプリケーションでは、一度に複数のミーティングに参加できます。複数ミーティングのすべてのミーティング画面を表示することも、一度に 1 つのミーティングのみ表示することもできます。

以下の方法で複数ミーティングを主催できます：

- ・ 1 つのミーティングをコンピュータで主催し、別のミーティングを eBeam サーバから主催する
- ・ 複数のミーティングを eBeam サーバから主催する
- ・ ミーティングに参加する

eBeam ハードウェアは共有するミーティングに接続している必要があります。

eBeam ハードウェアに接続するミーティングを指定するには：

1. 「ツール」メニューから「eBeam ミーティングを選択」を選択します。
2. プルダウンメニューからミーティング名を選択します。
3. 「OK」をクリックします。

ミーティング招待用 E メールを送信

eBeam ミーティングへのリンクまたは URL を含む E メールを送信し、他のユーザを共有ミーティングに招待できます。招待 E メールを送信するには、ミーティングは共有設定されている必要があります。リモート参加者は招待 E メールを送信することはできません。

招待 E メールを送信するには：

1. ミーティングが共有されていることを確認します。(ミーティングの主催と共有参照)
2. 「ミーティング」メニューから「ミーティングに招待」を選択します。

言語選択用のダイアログボックスが表示されます。

3. 招待Eメール用の言語を選択し、「続行」をクリックします。

注意： Eメールアプリケーションによっては、使用するEメールプロファイルの選択を促します。

Eメールアプリケーションの送信用画面に、eBeam ミーティングリクエストが表示されます。

4. 宛先欄に受取人のEメールアドレスを入力し、送信コマンドを選択します。

最新の eBeam Software をダウンロードするためのリンクと、Web ブラウザまたは eBeam Software を使用してミーティングに参加するためのリンクを含む招待Eメールが送信されます。

参照：

[招待Eメールの受諾](#)

[ミーティングへの参加](#)

ミーティングへの参加

以下の方法で複数ミーティングに参加できます：

- ・ eBeam Software を使用 ([eBeam ユーザとしてミーティングに参加するには：参照](#))
- ・ Web ブラウザを使用 ([Web ユーザとしてミーティングに参加するには：参照](#))

eBeam ユーザとしてミーティングに参加するには：

1. 「[ミーティング](#)」メニューから「ミーティングに参加」を選択します。
2. 「ミーティングに参加」ダイアログボックスでミーティングサーバを選択し、参加者名を入力し、ミーティング一覧からミーティング名を選択します。
ミーティング一覧には、ミーティング名が公開されている、アクティブミーティングの名前が表示されます。
参加したいミーティングサーバの名前が一覧に表示されない場合は、サーバ名を手動で入力できます。あとで容易に接続できるように、一覧にミーティングサーバを追加しておくこともできます。([ミーティングサーバの追加参照](#))
3. 「更新」をクリックし、公開されているミーティング名の一覧を更新します。
4. ミーティングにロックアイコンが付いている場合は、パスワードを入力します。(ミーティング名が一覧に表示されない場合は、ミーティング名を手動で入力し、必要場合はパスワードを入力します。)
5. 「参加」をクリックします。

共有ミーティングでの参加者使用可能機能に関する詳細は、[ミーティング参加者](#)を参照してください。

主催者がミーティングを終了すると、参加者は「主催者がミーティングを終了しました」メッセージを受信します。ミーティングはコンピュータのデスクトップで継続して表示できます。ミーティングへの接続を切断しても、参加者はミーティングを編集、保存、印刷したり、注釈を付けたりできます。

ミーティングから離脱する場合は、「[ミーティング](#)」メニューまたは[アプリケーションツールバー](#)から、「ミーティングを離脱」を選択します。

Web ユーザとしてミーティングに参加するには：

1. Internet Explorer を起動します。
-

- URL 欄に eBeam ミーティングを主催しているサーバの DNS 名または IP アドレスを入力します。
ミーティングが eBeam サーバで主催されている場合は、「www.jp.e-beam.com」を入力し、「ミーティング」ボタンをクリックします。
- 参加者名、ミーティング名、パスワード（必要な場合）を入力します。
- 「ミーティングに参加」をクリックします。
ミーティングが行なわれている場合は、Web ブラウザ上に eBeam 画面が表示されます。参加者はミーティングの全内容を見られます。
Web 使用のリモート参加者は、ミーティングを印刷したりディスクに保存できません。ミーティング主催者がミーティングを保存し、Web ユーザが後で Web ブラウザまたは他のアプリケーションで表示できるようにすることは可能です。
ミーティング中いつでも、「ミーティング」メニューから「ミーティングを離脱」を選択し、ミーティングから離脱できます。

参照：

[ミーティングの主催と共有](#)

[ミーティング招待用 Eメールの送信](#)

[招待 Eメールの受諾](#)

[ミーティング主催者の役割](#)

[ミーティング参加者](#)

[eBeam チャットの使用](#)

招待 Eメールの受諾

以下の方法で招待 Eメールを受諾できます：

- Web ブラウザから http: リンクをクリックし参加する
- eBeam Software からファイル：リンクをクリックし参加する。eBeam Software の最新バージョンは、www.e-beam.com のダウンロードページからダウンロード可能
- Web ブラウザを手動で起動し、リンクをコピーし貼り付けて参加する

参照：

[ミーティング招待用 Eメールの送信](#)

[ミーティングへの参加](#)

[ソフトウェア更新状況の確認](#)

ミーティングのアーカイブ

eBeam Software では、次の 2 つの状況で eBeam ミーティングのアーカイブを選択できます。

- 共有ミーティングの主催中。「ミーティングを開始」ダイアログボックスで、「サーバー上でミーティングをアーカイブ」チェックボックスにチェックを付けます。その後、「共有」ボタンをクリックすると
-

「ミーティングをアーカイブ」画面が表示されるようになります。ミーティングの共有に関する詳細は ミーティングの主権と共有 を参照してください。

- ・ ミーティングの作成後または終了後、ユーザはアーカイブを実行し、他の eBeam ユーザにそのミーティングの表示やダウンロードを可能にさせたり、またパスワードを持ったユーザのみにそれらを限定できます。

手順は以下のとおりです：

- ・ ミーティングを保存します。
- ・ 「ミーティング」メニューから「ミーティングをアーカイブ」を選択します。
- ・ ミーティングをアーカイブするサーバを選択し「続行」をクリックします。「ミーティングをアーカイブ」画面が表示されます。

次に進む： 「ミーティングをアーカイブ」画面

「ミーティングをアーカイブ」画面

「ミーティングをアーカイブ」画面では、ミーティング情報、セキュリティ上のアクセス要件、ファイルアクセス有効期限などの定義、および使用条件の確認が行えます。

「ミーティング情報」欄

- ・ ミーティング名：アーカイブされたミーティングに対して、保存済みの現在の名前をそのまま使用するか、または新しい名前を付けます。
- ・ ミーティング名を公開：チェックを付けると、アーカイブされたミーティングが公開されます（検索が可能になります）。

「アクセスセキュリティ」欄

- ・ パスワードアクセス — チェックを付けると、アーカイブされたミーティングを他の eBeam ユーザが検索しようとする場合に、パスワードが要求されます。チェックを付けた場合は、パスワードを入力し、確認のため同内容を再入力します。
- ・ セキュリティコード — チェックを付けると、他の eBeam ユーザがアーカイブされたミーティングファイルに対して編集や削除を行おうとする場合に、セキュリティコードが要求されます。注意：チェックを付けた状態でセキュリティコードを特に指定しない場合、自動的に定義済みのパスワードが使用されます。

「アクセス期限」欄

- ・ ここに表示される内容は、アーカイブされたミーティングファイルの格納とアクセスに関する現在の有効期限を示します。この期限を過ぎると、ファイルはサーバから削除されます。
- ・ 現在の基準を編集する場合はアクセス期限の画面で「変更」ボタンをクリックします。以下のような項目が表示されます。

「アクセス期限」画面

- ・ ミーティング格納 — デフォルトの設定を使用するか、特定の日付を指定します。
 - ・ ミーティングファイル有効期間 — アーカイブされたミーティングの有効期間を定義します。ここで定義された期間、他の eBeam ユーザによる、ミーティングの表示やダウンロードが可能になります。
 - ・ 期限どおり（削除されるまで） — ミーティング格納で指定された最終日付まで。
 - ・ 期間を指定 — 期間の開始と終了の日時を詳細に指定。注意：「削除されるまで」のチェックボックスにチェックを付けることによって、ファイルがサーバから削除される日（ミーティング格納の最終日を参照してください）に最終日を設定することも可能です。
 - ・ 「サマリ」欄 — アーカイブされたミーティングファイルの格納とアクセスの有効期限が、更新されて表
-

示されます。この期限を過ぎると、ファイルはサーバから削除されます。

「ミーティングをアーカイブ」のボタン

- ・ 「使用条件」ボタン — クリックすると、eBeam 製品の使用条件が確認できます。
- ・ 「ヘルプ」ボタン — クリックすると、この画面に対するコンテキスト依存のヘルプが表示されます。
- ・ 「アーカイブ」ボタン — すべての項目を選択し終わってから、このボタンをクリックします。
- ・ 「キャンセル」ボタン — アーカイブをキャンセルする場合に使用します。

参照：

[ミーティングの主催と共有](#)

[ミーティングへの参加](#)

[アーカイブされた eBeam ミーティングの検索](#)

アーカイブされた eBeam ミーティングの検索

ユーザは、「ミーティング」メニューからアーカイブされたミーティングを検索し、表示したりダウンロードすることが可能です。

注意：

- ・ eBeam ミーティングを検索するには、「ミーティング」メニューから、「ミーティングを検索」を選択します。
- ・ ミーティングの中にはパスワードが要求されるものもあります。

「アーカイブされたミーティングの検索」画面から実行できる機能については、以下のトピックを参照してください。

[「最近アーカイブされたミーティング」画面](#)

[「アーカイブされたミーティングの変更」画面](#)

[「ミーティング名で検索」画面](#)

[「フルサーチ」画面](#)

「最近アーカイブされたミーティング」画面

「最近アーカイブされたミーティング」画面は、既にアーカイブされている eBeam ミーティングの一覧表示、編集、削除などに使用します。注意：ミーティングの編集、削除にあたってセキュリティコードが要求されることがあります。そうした場合は、入力が必要です。

アーカイブされたミーティングのサーバの選択

- ・ セレクタを使用して、アーカイブされたミーティングが存在する eBeam サーバを選択します。場合によっては、「参照」ボタンをクリックしてサーバの場所を手動で検索することも可能です。
-

ミーティングの見出し項目とオプション

- ・ タイムスパンセレクタ — eBeam サーバでアーカイブされたミーティングを本日分から過去 90 日間分までの範囲で選択します。
- ・ ミーティング数 — 検索されたミーティングの数、表示されたミーティングの数を示します。
- ・ ミーティング名 — アーカイブされたミーティングの名前を示します。
- ・ ファイルサイズ — アーカイブされたミーティングファイルのサイズを示します。
- ・ 所有者 — ミーティングのアーカイブを実行したワークステーションのユーザー名を示します。
- ・ アーカイブ日 — ミーティングがサーバにアーカイブされた日付を示します。
- ・ 期限 — ここに示された日付以降、アーカイブされたミーティングの検索、編集などが行えなくなります。ミーティングはサーバから完全に削除されます。

注意：列の見出し部分をクリックすると、クリックした項目に基づいてミーティングリストをソートすることができます。

- ・ 「更新」ボタン — 現在のミーティングリストを更新したい場合にクリックします。他の eBeam ユーザによってアーカイブされた最新のミーティングも対象となります。
- ・ 「検索」ボタン — アーカイブされたミーティングをハイライトした後、「検索」ボタンをクリックしてそのミーティングを検索します。注意：ダイアログボックスが表示されると、ミーティングを開いたり、指定場所にダウンロードを行うことができます。ダイアログボックスが表示されない場合は、ユーザの要求がキャンセルされたことを示します。
- ・ 「編集」ボタン — アーカイブされたミーティングをハイライトした後、このボタンが操作可能になっている場合は、そのミーティングのアーカイブパラメータを編集できます。注意：ミーティングを編集する場合、パスワードやセキュリティコードの入力が要求されることがあります。
面の詳細については「[アーカイブされたミーティングの変更](#)」画面を参照してください。
- ・ 「削除」ボタン — アーカイブされたミーティングをハイライトした後、このボタンが操作可能になっている場合は、そのミーティングを削除できます。注意：ミーティングを削除する場合、パスワードやセキュリティコードの入力が要求されることがあります。削除の実行を確認する画面が表示されます。
- ・ 「閉じる」ボタン — クリックして画面を閉じます。

「アーカイブされたミーティングの変更」画面

- ・ 「アーカイブされたミーティングの変更」画面では、ミーティング情報、セキュリティ上のアクセス要件、ファイルアクセス有効期限の編集が行えます。

ミーティング情報欄

- ・ ミーティング名 — 現在のアーカイブされたミーティング名をそのまま使用するか、または変更します。
- ・ ミーティング名を公開 — チェックを付けると、アーカイブされたミーティング名が公開されます（検索が可能になります）。

「アクセスセキュリティ」欄

- ・ パスワードアクセス — チェックを付けると、アーカイブされたミーティングを他の eBeam ユーザが検索しようとする場合に、パスワードが要求されます。チェックを付けた場合は、パスワードを入力し、確認のため同内容を再入力します。
- ・ セキュリティコード — チェックを付けると、他の eBeam ユーザがアーカイブされたミーティングファイルに対して編集や削除を行おうとする場合に、セキュリティコードが要求されます（デフォルトではチェックが付いています）。注意：チェックを付けた状態でセキュリティコードを特に指定しない場合、自動的に定義済みのパスワードが使用されます。

「アクセス期限」欄

- ・ ミーティング格納 — デフォルトの設定を使用するか、特定の日付を指定します。
 - ・ ミーティングファイル有効期間 — アーカイブされたミーティングの有効期間を定義します。ここで定義された期間、他の eBeam ユーザによる、ミーティングのダウンロードが可能になります。以下のいずれかを選択します。
-

- ・ 期限どおり（削除されるまで） — ミーティング格納で指定された最終日付まで。
- ・ 期間を指定 — 期間の開始と終了の日時を詳細に指定。注意：「削除されるまで」のチェックボックスにチェックを付けることによって、ファイルがサーバから削除される日（ミーティング格納の最終日を参照してください）に最終日を設定することも可能です。
- ・ 「サマリ」欄 — アーカイブされたミーティングファイルの格納とアクセスの有効期限が、更新されて表示されます。この期限を過ぎると、ファイルはサーバから削除されます。

「アーカイブされたミーティングの変更」のボタン

- ・ 「ヘルプ」ボタン — クリックすると、この画面に対するコンテキスト依存のヘルプが表示されます。
- ・ 「適用」ボタン — すべての項目を選択し終わってから、このボタンをクリックします。
- ・ 「キャンセル」ボタン — 行った変更をキャンセルする場合に使用します。

「ミーティング名で検索」画面

定義済みのアーカイブされたミーティングを検索する場合に使用します。

アーカイブされたミーティングのサーバの選択

- ・ セレクタを使用して、アーカイブされたミーティングが存在する eBeam サーバを選択します。場合によっては、「参照」ボタンをクリックしてサーバの場所を手動で検索することも可能です。

アーカイブされたミーティングの名前とパスワード

- ・ ミーティング名 — アーカイブされたミーティング名をそのまま入力します。注意：大文字小文字を区別して入力します。
- ・ パスワード — 入力を要求された場合は、検索対象であるアーカイブされたミーティングのパスワードを、大文字小文字を区別して正確に入力します。
- ・ 「検索」ボタン — クリックして目的のミーティングを検索します。注意：ダイアログボックスが表示されると、ミーティングを開いたり、指定場所にダウンロードを行うことができます。ダイアログボックスが表示されない場合は、ユーザの要求がキャンセルされたことを示します。

「ミーティング名で検索」のボタン

- ・ 「検索」ボタン — アーカイブされたミーティングの正確な名前を入力した後、検索ボタンをクリックしてそのミーティングを検索します。注意：ダイアログボックスが表示されると、ミーティングを開いたり、指定場所にダウンロードを行うことができます。ダイアログボックスが表示されない場合は、ユーザの要求がキャンセルされたことを示します。
- ・ 「編集」ボタン — アーカイブされたミーティング名をそのまま入力した後、このボタンが操作可能になっている場合は、そのミーティングのアーカイブパラメータを編集できます。注意：ミーティングを編集する場合、パスワードやセキュリティコードの入力が要求されることがあります。
- ・ 画面の詳細については [「アーカイブされたミーティングの変更」画面](#) を参照してください。
- ・ 「削除」ボタン — アーカイブされたミーティングの正確な名前を入力した後、このボタンが操作可能になっている場合は、そのミーティングを削除できます。注意：ミーティングを削除する場合、パスワードやセキュリティコードの入力が要求されることがあります。削除の実行を確認する画面が表示されます。
- ・ 「閉じる」ボタン — クリックして画面を閉じます。

「フルサーチ」画面

「フルサーチ」画面で、1 つまたは複数のアーカイブされたミーティングを特定することができます。ミーティング名、所有者名、日付や時刻などで条件が設定できます。

アーカイブされたミーティングのサーバの選択

- ・ セレクタを使用して、アーカイブされたミーティングが存在する eBeam サーバを選択します。場合によっては、「参照」ボタンをクリックしてサーバの場所を手動で検索することも可能です。

サーチ基準のオプション

注意：以下の項目から検索のオプションを選択します。複数選択してもかまいません。

- ・ ミーティング名でサーチ — アーカイブされたミーティング名を入力します。注意：下に述べるチェックボックスやボタンを使用します。大文字小文字を区別する、完全一致、部分一致、先頭の文字列の一致等の方法で検索が可能です。
- ・ 所有者名でサーチ — ミーティングのアーカイブが行われたワークステーションの所有者の名前を入力します。注意：下に述べるチェックボックスやボタンを使用します。大文字小文字を区別する、完全一致、部分一致、先頭の文字列の一致等の方法で検索が可能です。
 - ・ 大文字小文字を区別してサーチ — チェックを付けると、ミーティング名や所有者名の入力内容を大文字小文字を区別して検索します。
 - ・ 完全な一致をサーチ — クリックすると、入力されたミーティング名や所有者名と完全に一致するアーカイブされたミーティングを検索します。
 - ・ 先頭部分の一致をサーチ — クリックすると、入力されたミーティング名や所有者名の先頭部分と一致するミーティングを検索します。
 - ・ 部分一致をサーチ — クリックすると、入力されたミーティング名や所有者名の内容と部分的に一致するミーティングを検索します。
- ・ アーカイブの日時でサーチ — ミーティングをアーカイブされた日付や時刻などの条件で検索する場合に使用します。
 - ・ 開始日 — 検索したいミーティングの最初の日付を選択します。注意：カレンダーアイコンをクリックして日付を自動的に入力することもできます。
 - ・ 終了日 — 検索したいミーティングの最終日付を選択します。注意：カレンダーアイコンをクリックして日付を自動的に入力することもできます。

「サーチ結果」の見出し項目

- ・ ミーティング名 — アーカイブされたミーティングの名前を示します。
- ・ ファイルサイズ — アーカイブされたミーティングファイルのサイズを示します。
- ・ 所有者 — ミーティングのアーカイブを実行したワークステーションのユーザー名を示します。
- ・ アーカイブ日 — ミーティングがサーバにアーカイブされた日付を示します。
- ・ 期限 — ここに示された日付以降、アーカイブされたミーティングのダウンロード、編集などが行えなくなります。ミーティングはサーバから完全に削除されます。

注意：列の見出し部分をクリックすると、クリックした項目に基づいてミーティングリストをソートすることができます。

「フルサーチ」画面のボタン

- ・ 「サーチ」ボタン — すべての項目を選択し終わってから、このボタンをクリックします。「サーチ結果」欄に結果が表示されます。
- ・ 「検索」ボタン — アーカイブされたミーティングをハイライトした後、「検索」ボタンをクリックしてそのミーティングを検索します。注意：ダイアログボックスが表示されると、ミーティングを開いたり、指定場所にダウンロードを行うことができます。ダイアログボックスが表示されない場合は、ユーザの要求がキャンセルされたことを示します。
- ・ 「編集」ボタン — アーカイブされたミーティングをハイライトした後、このボタンが操作可能になっている場合は、そのミーティングのアーカイブパラメータを編集できます。注意：ミーティングを編集する場合、パスワードやセキュリティコードの入力が要求されることがあります。

画面の詳細については「[アーカイブされたミーティングの変更](#)」画面を参照してください。

- ・「削除」ボタン — アーカイブされたミーティングをハイライトした後、このボタンが操作可能になっている場合は、そのミーティングを削除できます。注意：ミーティングを削除する場合、パスワードやセキュリティコードの入力が要求されることがあります。削除の実行を確認する画面が表示されます。
- ・「閉じる」ボタン — クリックして画面を閉じます。

参照：

[ミーティングの主権と共有](#)

[ミーティングへの参加](#)

[ミーティングのアーカイブ](#)

ミーティング主催者の役割

ミーティング主催者は、共有ミーティングを設定しミーティングのブロードキャストを行います。

共有ミーティング中、ミーティング主催者は [eBeam Software](#) のミーティングアプリケーション提供のすべての機能（ホワイトボードへの描画、注釈付け、新ページの作成、ページの削除など）を使用できます。

注意：ミーティング主催者が共有ミーティングを終了すると、全参加者の接続が切断されます。ミーティング主催者は、ミーティング終了のコマンドを選択する前に、ミーティングが完全に終了していることを確認する必要があります。

ミーティング主催者は以下の特別コマンドを使用して共有ミーティングの制御を行えます：

| 機能 | 記述 |
|-------------|---|
| 主催者と同一ページ表示 | <p>全参加者の表示ページを主催者と同一に設定します。同期が設定されていない場合は、リモート参加者は、ミーティング中にどのページでも表示できます。同期が設定されている場合は、リモート参加者はページ表示を変更できません。ただしこの場合、リモート参加者が注釈を付けることは可能です。</p> <p>「主催者と同一ページ表示」は「ミーティング」メニューから選択できます。このコマンドを設定するには、チェックマークを付けます。</p> <p>同期ボタンはページ表示変更用のツールバーからも選択できます（表示と表示変更ボタン参照）。同期が設定されている場合は、このボタンは押された状態になります。</p> |
| 「表示のみ」に設定 | <p>特定の参加者の注釈付けを停止します。</p> <p>表示のみに設定されている参加者は、ミーティング内で起こっていることをすべて表示できますが、ミーティングに注釈を付けることはできません（注釈ツール参照）。ただし、参加者表示でのチャットは可能です（表示と表示変更ボタン参照）。</p> <p>注意：ミーティング主催者を表示のみに設定することはできません。</p> <p>「表示のみ」に設定機能は、「ミーティング」メニューまたはアプリケーションツールバーから選択できます。このコマンドを設定するには、参加者 / チャットを表示し、設定対象の参加者の参加者名を選択する必要があります。</p> <p>「ミーティング」メニューまたはアプリケーションツールバーでは、「全員表示のみに設定」を選択することもできます。このコマンドは、全参加者の注釈付け停止を設定します。</p> |
| 参加停止 | <p>共有ミーティングから特定の参加者の参加を停止します。</p> <p>「参加停止」は「ミーティング」メニューまたはアプリケーションツールバーから選択できます。このコマンドを設定するには、参加者 / チャットを表示し、設定対象の参加者の参加者名を選択する必要があります。</p> |

参照：

[Web ツアー](#)

[ミーティング参加者](#)

ミーティング参加者

リモート参加者としてアクティブミーティングに参加すると、共有ミーティングの全内容をコンピュータに表示できます。([ミーティングへの参加参照](#))

リモート参加者の使用できる機能は、ミーティング主催者とは異なります。その詳細は、次の表を参照してください。

| 機能 | 記述 |
|-------------|---|
| 主催者と同一ページ表示 | ミーティング主催者が同期を設定していない場合は、リモート参加者は他のユーザとは別にミーティング中にどのページでも表示できます。 同期が設定されている場合は、リモート参加者はミーティング主催者が表示しているページのみ表示できます。ただしこの場合、リモート参加者が注釈を付けることは可能です。 |
| 「表示のみ」に設定 | ミーティング主催者が特定のリモート参加者に対して表示のみに設定している場合、その参加者は注釈付けすることができません。 |
| ページ機能 | リモート参加者は、新ページ、ページ複製、ページ消去、ページ削除の機能は使用できません。 |
| 注釈付け | リモート参加者は他のユーザによる注釈を消去したり元に戻したりできません。 |

参照：

[ミーティング主催者の役割](#)

[表示と表示変更ボタン](#)

[共有ミーティングでの注釈ツールの使用](#)

eBeam チャットの使用

参加者表示では、共有ミーティングにログインしている全参加者を表示します。また、この表示では、ミーティング中に他の参加者とオンラインでチャットできます。参加者を表示するには、「参加者表示に変更」ボタンをクリックするか ([表示と表示変更ボタン参照](#))、「表示」メニューから「参加者」を選択します。

参加者表示は、[チャットウィンドウ](#)と[参加者一覧](#)で構成されています。

チャットウィンドウ

チャットウィンドウでは、共有ミーティングの参加者はミーティング中にテキストメッセージを送受信できます。メッセージは[参加者一覧](#)に表示されている参加者に送信できます。メッセージを送信するには、新メッセージ欄にテキストメッセージを入力し、「送信先」の横のボタンをクリックします。

チャットウィンドウで使用できるオプションの詳細は、次の表を参照してください。

| コントロール | 記述 |
|---------|---|
| 新メッセージ | 新規 E メールメッセージを作成します。新規メッセージ欄にテキストメッセージを入力し、「全員」または「指定参加者」を選択します。(全員、指定参加者参照) |
| 受信者表示 | E メール受信者の一覧を表示します。このオプションが選択されている場合は、テキストメッセージ送信後、受信者名がメッセージの横に表示されます。 注意：受信 E メールの場合は、常に送信者名がメッセージの横に表示されます。 |
| 時刻表示 | E メールメッセージの送信時刻を表示します。このオプションが選択されている場合は、テキストメッセージ送信後、送信時刻がメッセージの横に表示されます。 |
| 特別色使用 | このオプションが選択されている場合は、チャットウィンドウ内で受信 / 送信用メッセージがカラーで識別されます。以下のカラーが使用されます： ・ ブラック — 受信テキストメッセージ ・ ブルー — 送信テキストメッセージ ・ レッド — 優先テキストメッセージ (受信 / 送信) |
| 優先メッセージ | 優先順位の高いメッセージをカラーで識別します。このオプションが選択されている場合は、受信 / 送信用メッセージはレッドで表示されます。 注意：このオプションが選択されていない場合は、メッセージはブラックで表示されます。 |
| 全員 | 新メッセージ欄に入力したテキストメッセージを、接続している参加者全員に送信します。このボタンは、新メッセージ欄にテキストメッセージが入力されると使用可能になります。 |
| 指定参加者 | 新メッセージ欄に入力したテキストメッセージを、参加者一覧の指定参加者全員に送信します。複数の参加者を選択 / 非選択するには、Shift キーを押しながら参加者名をクリックします。このボタンは、新メッセージ欄にテキストメッセージが入力されると使用可能になります。 |
| 消去 | チャットウィンドウ内のすべての受信 / 送信済みテキストメッセージを消去します。ただし、新メッセージ欄のテキストは消去されません。 |

チャットウィンドウを表示 / 非表示するには、チャットタイトル横の緑矢印をクリックします。

参照：

[ミーティング主催者の役割](#)

[ミーティング参加者](#)

[共有ミーティング](#)

参加者一覧

参加者一覧には、共有ミーティングの全参加者名と、各参加者の以下の情報が表示されます。

| 項目 | 記述 |
|----------|--|
| 参加者名 | 「ミーティングに参加」ダイアログボックスの「参加者名」欄に入力された名前が表示されます。(ミーティングへの参加参照) |
| <書き込み特権> | 書き込み特権があるかどうかアイコンが表示されます。参加者がミーティングに注釈付けできるように設定されている場合は、ペンアイコンが表示されます。注釈付けできない場合は、ペン上にラインの入ったアイコンが表示されます。(ミーティング主催者の役割、ミーティング参加者参照) |

| 項目 | 記述 |
|---------|--|
| 接続時刻 | 参加者がミーティングに接続した時刻を表示します。 |
| IP アドレス | 参加者の IP アドレスを表示します。 |
| メモ | 「ミーティングを開始」または「ミーティングに参加」ダイアログボックスに入力したメモが表示されます。(ミーティングの主催と共有、ミーティングへの参加参照) |

参照：

[ミーティング主催者の役割](#)

[ミーティング参加者](#)

[共有ミーティング](#)

Web ツアー

eBeam Software の Web ビュー機能を使用すると、[eBeam Software のミーティングアプリケーション](#)からインターネットの Web ページにアクセスできます。

Web ビューは Web ブラウザで、ほとんどの一般的な Web ブラウザ機能を備えています。また、「お気に入り」内のリンクへアクセスしたり ([お気に入り参照](#))、ホームページを設定したりできます ([Web ツアー設定参照](#))。

注意：Web ビューではポップアップウィンドウは表示できません。ポップアップウィンドウを含む Web サイトに行くと、ポップアップウィンドウがサポートされていないことを通知する警告ウィンドウが表示されます。

Web ビュー内の Web ツアー機能を使用すると、共有ミーティングの参加者に Web ページを 1 つずつ表示できます。新 URL に行くと、同時に参加者もそのサイトに行きます。

注意：Web ツアーは、eBeam Software のブラウザバージョン (www.e-beam.com の「ミーティング」からミーティングに参加することによりアクセス) ではサポートされていません。

Web ビューツアーを使用するには：

1. [表示と表示変更ボタン](#)内の Web ツアービューボタンをクリックします。
2. [同期](#)ボタンをクリックします。

注意： Web ツアー機能を使用するには、参加者が同期している必要があります。

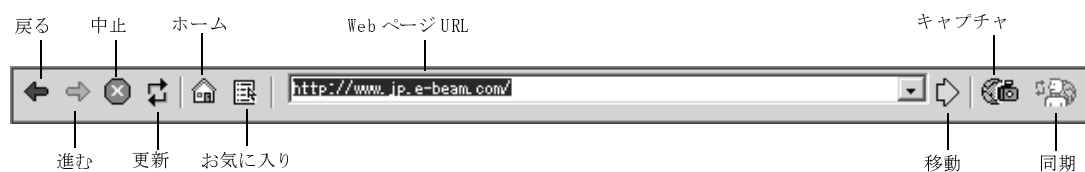
3. URL を入力するか、[お気に入り](#)からアドレスを選択します。



ホームページを設定するには、Web ツアー設定を参照してください。

Web ツアービューツールバー

Web ツアービューツールバーの表示と詳細は以下のとおりです：



| コントロール | 記述 |
|--------|--|
| 戻る | 直前に表示した Web ページを表示します。 注意：1Web ページのみ表示の場合は、このボタンは使用できません。 |
| 進む | 戻るボタンをクリックする前に表示した Web ページを表示します。 注意：進むボタンは、戻るボタンをクリックすると使用可能になります。 |
| 中止 | Web ページのロードを中止します。 |
| 更新 | 現在の Web ページを再ロードします。 |
| ホーム | ホームページを開きます。 注意：eBeam Software を使用している場合、eBeam の Web ページがホームページに設定されています。ホームページを設定変更するには、 <u>Web ツアー設定</u> を参照してください。 |

| コントロール | 記述 |
|-----------------|---|
| お気に入り | お気に入りに指定した Web サイトを表示します。アドレスは (Windows のみ) 「お気に入り」ディレクトリから表示されます。 |
| < Web ページ URL > | Web ページの URL をプルダウンリストで表示します。新しい Web ページに行くには、新 URL を入力するか、プルダウンリストから URL を選択し、「移動」をクリックします。 |
| キャプチャ | Web ツアー表示に現在表示されている Web ページのスナップショットを撮り、新ミーティングページの背景としてロードします。この機能は、一旦 Web ページを背景画像としてロードすると、 注釈ツール を使用して注釈付けできるため、プレゼンテーション資料の作成に大変便利です。 |
| 移動 | Web ページ URL のプルダウンリストにある Web ページ移動し、開きます。 |
| 同期 | 参加者を同期し、現在の Web ページを表示するように設定します。 注意：この機能はミーティング主催者が使用できます。この機能を設定するには、同期用ボタンをクリックします。 |

参照：

Web ツアー設定

表示と表示変更ボタン

ミーティングの主催と共有

ミーティング主催者の役割

Web ツアー設定

Web ツアー設定では、Web ツアーのホームページを設定し、履歴リストの内容を消去できます。

Web ツアー設定を行うには、「編集」メニューから「設定」を選択し、「Web ツアー設定」タブを選択します。

Microsoft NetMeeting

Microsoft NetMeeting のユーザは、eBeam システムを使用して Microsoft NetMeeting にデータを入力できます。

NetMeeting を eBeam と併用するには：

1. NetMeeting ソフトウェア (別売) をコンピュータにインストールします。
2. 設定用の指示に従って eBeam システムを設定します。
3. eBeam Software のミーティングアプリケーションを起動し、eBeam Software が eBeam ハードウェアに接続していることを確認します。

注意： eBeam Software のミーティングアプリケーションを起動する前に、eBeam Software を投影モードで使用していた場合は、ホワイトボードモードに切り替えます。(モードの選択参照)

4. 「ツール」メニューから「Microsoft NetMeeting」を選択します。
NetMeeting が起動し、NetMeeting ホワイトボードがコンピュータに表示されます。
5. eBeam システムの電子ペンを使用し、ホワイトボードに描画します。
描画ストロークが NetMeeting ホワイトボードに記録されます。
6. NetMeeting を eBeam の投影モードと併用することもできます。

注意：Microsoft NetMeeting に関する詳細は、Microsoft NetMeeting 用ヘルプシステムまたは Microsoft の Web サイトを参照してください。



eBeam Software の投影モード

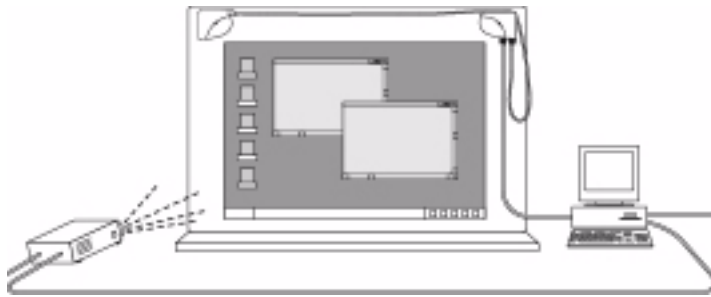
eBeam Software を eBeam Software の投影モード で使用する際は、ホワイトボードが仮想タッチスクリーンに変身します。投影モードでは、コンピュータデスクトップのアプリケーション操作を直接ホワイトボードから行うことができ、その度にコンピュータとホワイトボード間を往復しなくても済むため、プレゼンテーション用デバイスとして最適です。

eBeam Software を投影モード、またはその他のモードに切り替える方法に関する詳細は、モードの選択を参照してください。

このモードでは、eBeam システムとプロジェクターがコンピュータに接続されている必要があります。プロジェクターがコンピュータのデスクトップをホワイトボードに投影し、eBeam システムが電子ペン（マウスインサートを挿入したもの）のホワイトボードへの動きを検知するため、電子ペンを仮想マウスとして使用でき、ホワイトボードから直接コンピュータ操作を行えます。

投影モードの主目的は、ホワイトボードから直接コンピュータを操作することです。投影モードでは以下の機能が提供されています：

- ・ アプリケーションを開き、操作し、閉じる
- ・ ペイントまたはドローアプリケーションでフリーハンドの描画をする
- ・ eBeam Software のミーティングアプリケーションを操作する — 共有などすべてのミーティング操作をホワイトボードから直接制御できます。
- ・ 投影ツールバーを使用して、デスクトップに注釈付けする（スクリーンへの注釈追加参照）



上図で示されているように、コンピュータは eBeam ハードウェア（この場合は eBeam システム 1）とプロジェクターに接続されています。プロジェクターはコンピュータのデスクトップをホワイトボードに表示します。

投影モードでは、ホワイトボード上の電子ペンでのタップが、コンピュータのデスクトップ上でのマウスクリックの働きをします。コンピュータでと同様に、ホワイトボードからアプリケーションを開き操作して保存したり、閉じたり、注釈を付けたりできます。

eBeam システムのパッケージには、電子ペン内に入れるマウスインサートが同梱されています。マウスインサートを入れた電子ペンは、マーカの代わりに、ポイントをクリックするマウスデバイスとして機能します。マウスインサートを入れた電子ペンは、ホワイトボード上にマーカのクリックのあとを残さないため、プレゼンテーションの際、投影されたコンピュータのデスクトップ上のエリアを選択する時などに便利です。

オプションで、eBeam システムのパッケージに eBeam の新しい投影ペンを同梱することもできます。

eBeam Software の投影モード

参照：

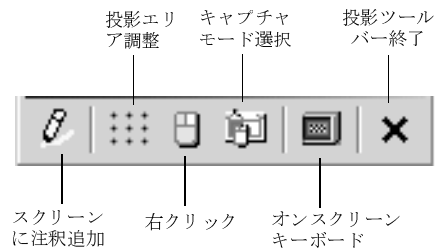
[投影ツールバー](#)

[スクリーンへの注釈追加](#)

[ホワイトボードモードと投影モードの併用](#)

投影ツールバー

[eBeam Software の投影モード](#)で使用する、投影ツールバーのアイコンと詳細は以下のとおりです：



| ボタン | 記述 |
|--------------|---|
| スクリーンに注釈追加 | スクリーン注釈追加用のツールバーを開きます。そのツールバー上のツールを使用し、コンピュータのデスクトップに注釈を付けます。(スクリーンへの注釈追加参照) |
| 投影エリア調整 | 投影モード用調整ウィザードを開きます。(調整参照) |
| 右クリック | 投影モードで電子ペンを使用する際の、右クリックメニューコマンドを表示します。右クリックメニューコマンドを表示するには、まず、右クリックボタンをタップします。次に電子ペンでホワイトボードをタップすると、eBeam Software はそのタップを右クリックとして認識し、適切な右クリック機能の動作を行います。 |
| キャプチャモード選択 | キャプチャモード選択用メニューを表示します。(モードの選択参照) |
| オンスクリーンキーボード | 投影モードで使用するオンスクリーンキーボードを開きます。 注意：この機能は、オンスクリーンキーボードがオペレーティングシステムでサポートされ、かつ使用可能になっている場合のみ、サポートされます。 |
| 投影ツールバー終了 | 投影ツールバーを終了します。eBeam Software は投影モードのままです。 |

参照：

[スクリーンへの注釈追加](#)

[モードの選択](#)

[調整](#)

[eBeam Software の投影モード](#)

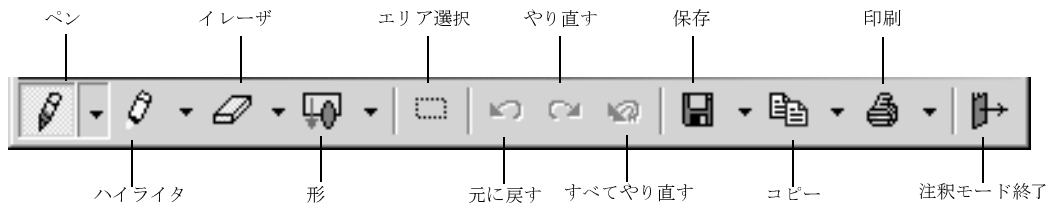
[スクリーンへの注釈追加](#)

eBeam Software の投影モードでは、投影ツールバーからスクリーン注釈追加ツールバーを開き、コンピュータのデスクトップに注釈を追加できます。注釈追加ツールバーは、eBeam 用 Windows システムトレイメニューからもアクセスできます。

スクリーン注釈追加ツールバーが表示されている場合は、eBeam Software はスクリーン注釈付けモードになります。このモードでの機能は以下のとおりです：

- ・ スクリーン注釈追加ツールバー上のツールを使用して、デスクトップのどこにでも注釈を付けられます。
- ・ 注釈をビットマップ形式で**保存**、**印刷**、またはシステムのクリップボードに**クリップボードにコピー**できます。
- ・ このモードでは、アプリケーションを起動したり、コンピュータ内の他の機能を使用することはできません。これは、スクリーン注釈付けモード中は、まず eBeam Software がデスクトップのスナップショットを撮り、そのスナップショットをコンピュータのデスクトップの前面に表示し、そこに注釈付けできるようにしているためです。注釈付けはスナップショット上になされ、実際のデスクトップはその下に位置し保護されています。スクリーン注釈付けモードを終了し、コンピュータの他の機能を使用するには、スクリーン注釈付けツールバー上の**注釈モード終了**ボタンをクリックします。

スクリーン注釈追加ツールバーの、アイコンと詳細は以下のとおりです：



| ツール | 記述 |
|----------------|--|
| ペン | オペレーティングシステムでサポートされているカラーを使用し、デスクトップにフリーハンドで注釈付けできます。ペンツール横の矢印をクリックすると、ペン用オプションパレットが開き、ペンカラー、線幅、スムーズラインを選択できます。 |
| ハイライタ | オペレーティングシステムでサポートされているカラーを使用し、デスクトップにフリーハンドでハイライト付けできます。ハイライタツール横の矢印をクリックすると、ハイライタ用オプションパレットが開き、ハイライタカラー、線幅を選択できます。 |
| イレーザ | スクリーン注釈付けツールバー上のツールを使用して付けた注釈を、デスクトップから消去できます。イレーザツール横の矢印をクリックすると、イレーザ用オプションパレットが開き、イレーザのサイズを選択できます。 |
| 形 | オペレーティングシステムでサポートされているカラーを使用し、デスクトップに数種類の基本図形（円、長方形、矢印など）を描けます。図形ツール横の矢印をクリックすると、図形用オプションパレットが開き、カラー、線幅、スムーズライン、図形を半透明にするかどうかを選択できます。 注意：図形を半透明に設定すると、図形の下テキストやラインが透けて見えます。 |
| エリア選択 | デスクトップにエリア選択用の長方形を描きます。この長方形で囲まれたエリアは、スクリーン注釈付けツールバー上のツールを使用して保存、コピー、印刷できます。 |
| 元に戻す | 前に付けた注釈を消去します。このオプションは、すべての注釈が消去されるまで使用可能です。 |
| やり直す | 直前に元に戻した注釈付けをやり直します。複数の注釈付けを元に戻した場合は、元に戻す作業を始めた最後の注釈付けまでやり直すことができます。一旦、新しい注釈付けが行われると、このオプションは使用できなくなります。 注意：このオプションは元に戻すオプションが選択された場合に使用可能です。 |
| すべて元に戻す / やり直す | このボタンは、すべての注釈がスクリーンから消去されるまで「すべて元に戻す」のままです。すべての注釈がスクリーンから消去されると、このボタンは「すべてやり直す」になります。 |

| ツール | 記述 |
|-------------|---|
| 保存 | <p>デスクトップ全体、またはデスクトップ上の選択エリアをビットマップファイルに保存します。</p> <p>保存ツール横の矢印をクリックすると、保存用オプションメニューが開きます。このオプションを選択する前に、<u>エリア選択</u>ツールを使用してデスクトップ上のエリアを選択した場合は、メニュー内で「<u>選択エリアを保存</u>」がデフォルトで選択されています。この場合は、選択エリアのみがファイルに保存されます。</p> <p>エリアを選択していない場合は、「<u>スクリーン全体を保存</u>」がデフォルトで選択されています。この場合は、デスクトップ表示全体がファイルに保存されます。</p> <p>保存ボタンをクリックすると、標準的な別名保存ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスではミーティング名を入力し、ファイルの格納場所を指定します。</p> |
| クリップボードにコピー | <p>デスクトップ全体、またはデスクトップ上の選択エリアをオペレーティングシステムのクリップボードにコピーします。クリップボードにコピーされたデータは、ペイントアプリケーションや Word などのアプリケーションに貼り付けられます。</p> <p>コピーツール横の矢印をクリックすると、コピー用オプションメニューが開きます。このオプションを選択する前に、<u>エリア選択</u>ツールを使用してデスクトップ上のエリアを選択した場合は、メニュー内で「<u>選択エリアをコピー</u>」がデフォルトで選択されています。この場合は、選択エリアのみがオペレーティングシステムのクリップボードにコピーされます。</p> <p>エリアを選択していない場合は、「<u>スクリーン全体をクリップボードにコピー</u>」がデフォルトで選択されています。この場合は、デスクトップ表示全体がオペレーティングシステムのクリップボードにコピーされます。</p> |
| 印刷 | <p>デスクトップ全体、またはデスクトップ上の選択エリアを指定プリンタに印刷します。このオプションを使用するには、あらかじめオペレーティングシステム上でプリンタを設定しておく必要があります。</p> <p>印刷ツール横の矢印をクリックすると、印刷用オプションメニューが開きます。このオプションを選択する前に、<u>エリア選択</u>ツールを使用してデスクトップ上のエリアを選択した場合は、メニュー内で「<u>選択エリアを印刷</u>」がデフォルトで選択されています。この場合は、選択エリアのみが印刷されます。</p> <p>エリアを選択していない場合は、「<u>スクリーン全体を印刷</u>」がデフォルトで選択されています。この場合は、デスクトップ表示全体が印刷されます。</p> |
| 注釈モード終了 | <p>スクリーン注釈付けツールバーを隠し、スクリーン注釈付けモードを終了し、eBeam Software を標準の投影モードに戻します。スクリーン注釈付けモードが終了する前に、すべての注釈が消去されることを通知するメッセージが表示されます。必要に応じて「いいえ」をクリックし、<u>保存</u>、<u>クリップボードにコピー</u>、<u>印刷</u>などのツールを使用して注釈の処理をしてください。それらの処理が必要ない場合は、「はい」をクリックし、<u>eBeam Software の投影モード</u>に戻ります。</p> |

参照：

投影ツールバー

モードの選択

調整

eBeam Software の投影モード

eBeam 用 Windows システムトレイメニュー

eBeam Software を起動していない場合でも、Windows システムトレイ内に eBeam Software 用アイコンが表示され、eBeam 用のメニューを選択できます。メニュー項目の詳細は以下の表を参照してください。

| メニュー項目 | 記述 |
|----------------|--|
| ホワイトボードのキャプチャ | eBeam Software をホワイトボードモードにし、 <u>eBeam Software のミーティングアプリケーション</u> を起動します。ホワイトボード上のデータはミーティングアプリケーションで検知されます。(ホワイトボードモードとは参照) |
| フリップチャートのキャプチャ | eBeam Software をフリップチャートモードにし、 <u>eBeam Software のミーティングアプリケーション</u> を起動します。フリップチャート上のデータはミーティングアプリケーションで検知されます。(フリップチャートモードとは参照) |
| プロジェクター使用 | eBeam Software を投影モードにします。電子ペンは仮想マウスの役割をします。(投影モードとは参照) |
| システムの接続解除 | eBeam Software を eBeam ハードウェアから接続解除し、コンピュータのポートを解放します。 <u>eBeam Software のミーティングアプリケーション</u> は継続して使用できます。eBeam ハードウェアが接続されていない、または検知できない場合は、赤線の付いた eBeam アイコンがシステムトレイ内に表示されます。(モード表示用アイコン参照) |
| 投影ツールバー | eBeam Software が投影モードで使用されている場合に、投影ツールバーを表示し、投影モードで使用する機能にアクセスします。(投影ツールバー参照) 「投影ツールバーを表示」オプションにチェックマークが付いている場合は、ツールバーが表示されていることを示します。投影ツールバーから、 <u>スクリーンへの注釈追加機能</u> にアクセスすることもできます。 |
| スクリーンに注釈追加 | スクリーン注釈追加ツールバーを表示します。(スクリーンへの注釈追加参照) |
| オンスクリーンキーボード表示 | オンスクリーンキーボード用メニューを表示します。オンスクリーンキーボードがオペレーティングシステムでサポートされ、かつ使用可能になっている場合にこのメニューを選択すると、オンスクリーンキーボードが表示され、投影モードで使用することができます。 この機能は、オンスクリーンキーボードがオペレーティングシステムでサポートされ、かつ使用可能になっている場合のみ、サポートされます。 |
| 投影モード設定 | 投影モード設定用のダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスでは警告メッセージのオン / オフを設定できます。 |
| 投影エリア調整 | 投影モード用調整ウィザードを起動します。(調整参照) |
| システム設定 | (設定参照) |
| システム検知 | eBeam ハードウェアの検知を試みます。(接続方法参照) |
| キャプチャエリア調整 | eBeam ハードウェア用調整ウィザードを開きます。(調整参照) |
| ヘルプ | eBeam Software のヘルプシステムを開きます。 |
| 終了 | eBeam Software を終了し、システムトレイメニューから eBeam アイコンを消去します。 |

参照：

[モードの選択](#)

[調整](#)

[eBeam Software のミーティングアプリケーション](#)

[eBeam Software の投影モード](#)

ショートカットストリップの使用

ショートカットストリップを使用すると、新ページ作成または印刷のための操作を、コンピュータの場所まで行かずに直接ホワイトボードまたはフリップチャートから行えます。

ホワイトボードまたはフリップチャート上の描画エリア内にショートカットストリップが貼り付けられている場合は、電子ペンでスプリット上をタップするだけで、新ページを作成したりページを印刷したりできます。

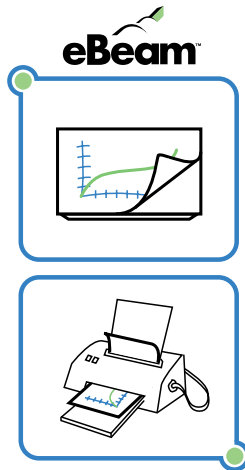
ショートカットストリップは、以下の2種類のモードで使用します：

ホワイトボードモード用ショートカットストリップ ([ホワイトボードモードでのショートカットストリップ参照](#))

フリップチャートモード用ショートカットストリップ ([フリップチャートモードでのショートカットストリップ参照](#))

ホワイトボードモードでのショートカットストリップ

eBeam システムのパッケージには、ホワイトボードモード用ショートカットストリップが同梱されています。このショートカットストリップを使用すると、コンピュータの場所まで行かずに、新ページ作成または印刷のための操作を直接ホワイトボードから行えます。



ショートカットストリップの設定と使用に関する詳細は、以下を参照してください。

[ホワイトボードモードでショートカットストリップを設定するには：](#)

[ホワイトボードモードでのショートカットストリップ機能の停止](#)

[ホワイトボードモードでのショートカットストリップの使用](#)

ホワイトボードモードでショートカットストリップを設定するには：

1. ショートカットストリップを台紙からはがし、描画エリア内の端に貼り付けます。

ショートカットストリップは、ホワイトボードの下部または脇に張り付けておくと、後でじゃまになりません。

2. 「ツール」メニューから「ショートカットストリップ：調整」を選択し、ショートカットストリップ調整用ダイアログボックスを開きます。
3. 画面上の調整用ウィザードの指示に従って、ショートカットストリップの左上と右下の角を電子ペンでタップします。
4. 調整用ダイアログボックスで「OK」をクリックするか、自動的に閉じるのを待ちます。

eBeam Software のミーティングアプリケーションのアクティブページに、ショートカットストリップの位置が表示されます。eBeam Software では、調整済みショートカットストリップの位置情報は、変更されるまで次のセッションでも保持されます。

ホワイトボードモードでのショートカットストリップ機能の停止

ショートカットストリップをホワイトボードから取り外した場合は、eBeam Software でもショートカットストリップ機能を停止する必要があります。これは、ショートカットストリップをホワイトボードから物理的に取り外しても、ソフトウェアでのショートカットストリップ機能はオンに設定されたままであるため、ホワイトボード上の調整済みショートカットストリップが貼り付けられていた場所を電子ペンでタップすると、そのタップ場所に応じて eBeam Software のミーティングアプリケーション の新ページが作成されたり、ページが印刷されたりするためです。

以下の2つの方法で、ショートカットストリップ機能がオンであるかどうか確認できます：

- ・ アクティブページにショートカットストリップ用アイコンが表示されているかどうか確認します。アイコンが表示されている場合は、ショートカットストリップ機能はオンに設定されています。
- ・ 「ツール」メニューから「ショートカットストリップ」の表示を確認します。「使用可能にする」オプションの横にチェックマークが付いている場合は、ショートカットストリップ機能はオンに設定されています。

ショートカットストリップ機能をオフに設定するには、「ツール」メニューから「ショートカットストリップ：使用」を選択します。

「使用」オプション横のチェックマークが消去され、ショートカットストリップアイコンが アクティブページ から消去されます。

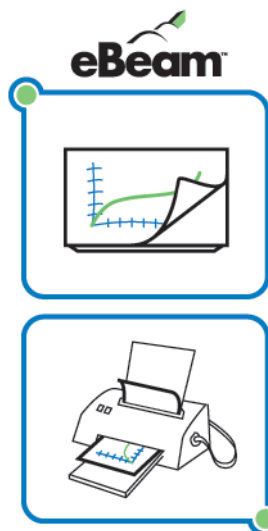
同一セッション中に再びショートカットストリップ機能をオンに設定する場合は、eBeam Software ではその位置情報が保持されているため、ショートカットストリップの調整は必要ありません。ただし、eBeam Software のミーティングアプリケーションを終了し再起動した場合は、再調整する必要があります。

ホワイトボード上のショートカットストリップの位置を変更した場合は、そのつど再調整する必要があります。

ホワイトボードモードでのショートカットストリップの使用

ミーティング中は、ページを印刷したりホワイトボード上の内容を消去して新ページを作成する必要が起きます。

ショートカットストリップを調整しておく、電子ペンでホワイトボード上をタップするだけで以下の操作を行えます。



新ページ

ページの印刷

| アイコン | 記述 |
|--------|---|
| 新ページ | 現在のページを保存し、新しい白紙ページをコンピュータ画面に表示します。ホワイトボードの内容を消去し、新しいページを開始したい場合に選択します。 |
| ページの印刷 | コンピュータのデフォルト設定されているプリンタに、アクティブページを（1部）印刷します。 |

フリップチャートモードでのショートカットストリップ

フリップチャートに貼り付けられているショートカットストリップを使用すると、次ページ/前ページを作成し、現在のページを印刷するための操作を、コンピュータの場所まで行かずに直接ホワイトボードから行えます。

ショートカットストリップはフリップチャートに組み込まれているため、eBeam Software は自動的にショートカットストリップの位置を検知します。そのため、フリップチャートモードではショートカットストリップを調整する必要はありません。

フリップチャートモードでのショートカットストリップの使用

フリップチャートを使用する場合は、コンピュータ上の eBeam Software のフリップチャートミーティングでどのページが表示されているかが見られる場所に、コンピュータを置くことをおすすめします。フリップチャートモードでは、eBeam Software で表示されているページが**アクティブページ**です。常に eBeam Software で表示されているページが、フリップチャートで編集中のページと同一であることを、確認してください。

| アイコン | 記述 |
|------|--|
| 次ページ | <p>ショートカットストリップの上部ボックスが次ページ用のショートカットです。</p> <p>eBeam Software で最新のフリップチャートミーティングページが表示されている場合に、次ページ用ショートカットを電子ペンでタップすると、eBeam Software のフリップチャートモードで新しい白紙ページが作成されます。</p> <p>eBeam Software で前のフリップチャートミーティングページが表示されている場合に、次ページ用ショートカットを選択すると、ミーティング内の次ページが表示されます。</p> |

| アイコン | 記述 |
|-------|--|
| 前ページ | <p>ショートカットストリップの中部ボックスが前ページ用のショートカットです。</p> <p>eBeam Software で最初のフリップチャートミーティングページ以外のページが表示されている場合に、次ページ用ショートカットを電子ペンでタップすると、ミーティング内の前ページが表示されます。</p> <p>eBeam Software で最初のフリップチャートミーティングページが表示されている場合に、前ページ用ショートカットを選択しても、何も起こりません。</p> |
| ページ印刷 | <p>ショートカットストリップの下部ボックスがページ印刷用のショートカットです。</p> <p>ページ印刷用ショートカットを電子ペンでタップすると、現在 eBeam Software で表示されているページを、コンピュータで設定されているプリンタに印刷します。</p> |

トラブルシューティング

eBeam システム使用中に発生し得るトラブルへの解決策に関しては、以下を参照してください。ここでは Windows 版 eBeam Software に関するトラブルシューティングを記述します。以下のトピックのトラブルシューティングが記載されています。

[eBeam ハードウェアの検知 / 使用](#)

[ネットワーク接続 / 共有ミーティング](#)

[描画 / データキャプチャ](#)

[ショートカットストリップ](#)

[eBeam ミーティングアプレット](#)

[背景画像](#)

eBeam ハードウェアの検知 / 使用

[eBeam Software と eBeam ハードウェアの接続](#)に関しては、eBeam Software のハードウェアへの接続の項を参照してください。eBeam ハードウェアの検知の FAQ に関しては、以下の表を参照してください。

| メッセージ | eBeam | 対策 |
|--|---------------|---|
| <p>「eBeam が見つかりません。接続ケーブルと電源を点検してください。」</p> <p>(このメッセージはアプリケーション起動時、またはミーティング中に表示される可能性があります。)</p> | <p>ハードウェア</p> | <p>e Beam システム 1 :</p> <ul style="list-style-type: none"> eBeam 用のすべてのケーブルが設定ガイドの指示に従って接続されていることを確認してください。RS232 - RJ11 ケーブルがコンピュータと eBeam の右側センサーポッドに接続されており、eBeam の左側センサーポッドからのケーブルが右側センサーポッドに接続されている必要があります。電源ケーブルは RS-232 コネクタに接続され、電源アウトレットに接続されている必要があります。これらを点検後「再試行」を選択します。 左側センサーポッドの緑 LED ランプが点灯していることを確認してください。LED ランプが点灯していない場合は、eBeam ハードウェアへ電源が供給されていないことを示しています。上記の説明を参照し、すべてのケーブルが正しく接続されていることを確認し、「再試行」を選択します。 RS232 - RJ11 ケーブルを右側センサーポッドから切断してから再接続し、「再試行」を選択してください。 <p>eBeam システム 3、シリアル :</p> <ul style="list-style-type: none"> eBeam 用のすべてのケーブルが設定ガイドの指示に従って接続されていることを確認してください。RS232 - RJ11 ケーブルがコンピュータと eBeam のセンサーポッドに接続されている必要があります。電源ケーブルは RS-232 コネクタに接続され、電源アウトレットに接続されている必要があります。これらを点検後「再試行」を選択します。 eBeam センサーポッドの緑 LED ランプが点灯していることを確認してください。LED ランプが点灯していない場合は、eBeam ハードウェアへ電源が供給されていないことを示しています。上記の説明を参照し、すべてのケーブルが正しく接続されていることを確認し、「再試行」を選択します。 RS232 - RJ11 ケーブルを右側センサーポッドから切断してから再接続し、「再試行」を選択してください。 <p>eBeam システム 3、USB :</p> <ul style="list-style-type: none"> USB ケーブルがコンピュータと eBeam のセンサーポッドに接続されていることを点検後、「再試行」を選択してください。 eBeam センサーポッドの緑 LED ランプが点灯していることを確認してください。LED ランプが点灯していない場合は、eBeam ハードウェアへ電源が供給されていないことを示しています。USB ケーブルの接続を点検後、「再試行」を選択してください。 <p>それでも LED ランプが点灯せず、「新ハードウェア追加」用ウィザードが起動した場合は、画面上の指示に従ってください。Windows OS が必要ハードウェア (hidden. drv) を自動的に検出できず、Windows のインストール CD が手許にない場合は、「c:\Windows\system」または「c:\Windows\system32」を参照します。eBeam ハードウェアの電源が切断されるのを防ぐため、ドライバのインストールが完了するまでキャンセルしないように注意してください。</p> <p>eBeam システム 3、Bluetooth ワイヤレス</p> <ul style="list-style-type: none"> eBeam ソフトウェアで指定した COM ポートが、お使いの Bluetooth 管理ソフトウェアで選択されている Bluetooth の COM ポートと同じであることを確認してください。eBeam ソフトウェアで設定されている COM ポートを確認するには、「ツール」メニューから「eBeam Hardware : 設定」を選択します。 お使いの Bluetooth 管理ソフトウェア (Bluetooth アダプタメーカーが提供) を点検し、eBeam システムに接続されていることを確認します。eBeam システムに接続されていない場合は、接続し直してください。 eBeam センサーポッドの円形の青 LED ランプが点灯していることを確認してください。LED ランプが点灯していない場合は、eBeam センサーポッドへ電源が供給されていないことを示します。LED ランプが点灯するまで、すべてのケーブルが正しく接続されていることを確認してください。LED ランプは最初は緑で、その後青に変わります。 USB ケーブルをセンサーポッドから切断してから再接続し、「再試行」を選択してください。 |

| メッセージ | eBeam | 対策 |
|-------|--------|--|
| | ソフトウェア | <ul style="list-style-type: none"> まず、上記を参照しハードウェアが接続されていることを確認し、「キャンセル」をクリックしてください。 <u>eBeam ハードウェアを検知できない</u>を参照してください。 コンピュータに2バージョン以上の eBeam Software がインストールされている場合は、もう1つの eBeam Software が稼動している可能性があるので、ポートに接続されている可能性があります。もう1つの eBeam Software を終了してください（古いバージョンの eBeam Software は、アンインストールすることをおすすめします）。 <u>eBeam Software のミーティングアプリケーションを終了し、再起動</u>してください。 イレーザがイレーザパッド上に置かれていないことを確認してください。 シリアル-USB コネクタを使用している場合は、コネクタ付随の指示に従ってください。 |

| メッセージ | eBeam | 対策 |
|---|--------|--|
| <p>状況ラインメッセージ 「eBeam が自動検知されませんでした。」または「xx 上の eBeam ハードウェアに接続できません。」 (xx はポートを指す)</p> <p>(このメッセージは、「eBeam が見つかりません」メッセージ用ダイアログボックスで「キャンセル」を選択した場合に表示される可能性があります。)</p> | ソフトウェア | <ul style="list-style-type: none"> <u>「eBeam が見つかりません。接続ケーブルと電源を点検してください。」</u>メッセージを参照してください。 <u>eBeam ハードウェアを検知できない</u>を参照してください。 |

| メッセージ | eBeam | 対策 |
|---|--------|---|
| <p>状況ラインメッセージ 「調整に失敗しました。電源とケーブルを点検してください。」</p> <p>(このメッセージは、初めて eBeam Software を起動した際、または「eBeam が見つかりません」メッセージ用ダイアログボックスで「再試行」を選択した場合に表示される可能性があります。eBeam システム 1 のみで表示されます。)</p> | ハードウェア | <ul style="list-style-type: none"> このメッセージは、eBeam ハードウェアが検知されても、センサーポッド間で通信できない場合に表示されます。右側センサーポッドのケーブル接続を点検してください。また、センサーポッド間で通信を妨げるものが何もないことを確認してください。 |

| メッセージ | eBeam | 対策 |
|---|--------|---|
| <p>「eBeam ハードウェアは現在投影モードで使用されています。eBeam ハードウェアをこのアプリケーションで使用しますか？」</p> <p>(このメッセージはアプリケーション起動時、または「ホワイトボードからキャプチャ」選択後に表示される可能性があります。)</p> | ソフトウェア | <ul style="list-style-type: none"> ・ 投影モードから <u>eBeam Software のミーティングアプリケーション</u> を起動、または切り替える際に表示されます。(モードの選択参照) |

トラブルシューティング

ネットワーク接続 / 共有ミーティング

| メッセージ | eBeam | 対策 |
|--|--------|---|
| <p>「ミーティングを共有するには、eBeam ハードウェアが接続され検知されている必要があります。」</p> <p>(このメッセージは「ミーティング共有」選択後に表示されます。)</p> | ソフトウェア | <ul style="list-style-type: none"> ・ ミーティングを共有するには、コンピュータが eBeam ハードウェアに接続されている必要があります。(ミーティングの<u>主催と共有</u>参照) |

| メッセージ | eBeam | 対策 |
|---|--------|--|
| <p>eBeam ミーティングサーバ上でミーティングを主催、または eBeam ミーティングサーバ上のミーティングに参加できない。</p> | ソフトウェア | <ul style="list-style-type: none"> ・ ミーティングを共有するには、eBeam ハードウェアがコンピュータに接続されていることを確認してください。(ミーティングの<u>主催と共有</u>参照) ・ ネットワーク / インターネット接続がファイアウォールまたはプロキシサーバ内の場合は、プロキシサーバ設定を行う必要があります。(プロキシサーバの<u>設定</u>参照) |

| メッセージ | eBeam | 対策 |
|--|--------|---|
| ケーブルモデムまたはDSLを使用して、eBeam ミーティングサーバ上でミーティングを共有、またはeBeam ミーティングサーバ上のミーティングに参加できない。 | ソフトウェア | <ul style="list-style-type: none"> ミーティングを共有するには、eBeam ハードウェアがコンピュータに接続されていることを確認してください。<u>(ミーティングの主権と共有参照)</u> ネットワーク / インターネット接続がファイアウォールまたはプロキシサーバ内の場合は、プロキシサーバ設定を行う必要があります。<u>(プロキシサーバの設定参照)</u> <p>インターネット接続がプロキシサーバ / ファイアウォール内である可能性が少ない場合でも、ISP によりファイアウォール設定がなされていて、この問題が発生している可能性もあります。以下の対処を試みてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> DNS 名「www.jp.e-beam.com」、ポート番号「443」で新サーバを追加します。<u>(ミーティングサーバの追加参照)</u> このオプションは、v2.1 以上で使用できます。新バージョンのソフトウェアでは、自動的にポート「443」を使用して接続するように設定されていますが、場合によっては手動で設定する必要があるかもしれません。 |

| メッセージ | eBeam | 対策 |
|---|--------|--|
| 「ミーティングに参加」ダイアログボックスで共有ミーティングのミーティング名が表示されない。 | ソフトウェア | <ul style="list-style-type: none"> ミーティングの主権者が「ミーティングを開始」ダイアログボックスからミーティング共有を設定する際に <u>(ミーティングの主権と共有参照)</u>、ミーティング名を公開するかどうか選択できません。ミーティング名が公開されている場合は、「ミーティングに参加」ダイアログボックスに表示されます。ミーティング名が公開されていない場合は、ミーティングの参加者は手動でミーティング名を入力する必要があります。 ミーティング名を公開する際には、「ミーティングを開始」ダイアログボックスの「ミーティング名を公開」オプションが選択されていることを確認してください。 インターネット接続がプロキシサーバ / ファイアウォール内であるかどうか確認してください。確認後、必要であればプロキシサーバ設定を行ってください。<u>(プロキシサーバの設定参照)</u> |

| メッセージ | eBeam | 対策 |
|------------|--------|---|
| プロキシサーバの設定 | ソフトウェア | <ul style="list-style-type: none"> <u>プロキシサーバの設定</u>を参照してください。 |

トラブルシューティング

描画 / データキャプチャ

| メッセージ | eBeam | 対策 |
|---|--------|---|
| eBeam ハードウェアが検知されているにもかかわらず、ホワイトボード上での描画が <u>eBeam Software のミーティングアプリケーションのアクティブページ</u> に表示されない。 | ハードウェア | <ul style="list-style-type: none"> ・ eBeam システム 1 を使用している場合は、両センサーポッド間のケーブルが正しく接続されていることを確認してください。 ・ 電子ペンをホワイトボードに押し付けてみて、かすかな音が聞こえない場合は、電池を交換してください。 ・ 他の電子ペンで描画してみてください。他の電子ペンで描画できる場合は、描画できない電子ペンの電池を交換してください。 ・ 電子ペンの先端部分を持って描画していないことを確認してください。電子ペンからの信号を指で妨げている可能性があります |
| | ソフトウェア | <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>eBeam Software のミーティングアプリケーション</u> の「ツール」メニューから「eBeam Hardware : 検知」を選択し、状況ラインを確認してください。ハードウェアが検知されていないことが表示されている場合は、<u>eBeam ハードウェアの検知 / 使用</u> を参照してください。 |

| メッセージ | eBeam | 対策 |
|--|--------|---|
| 電子ペンによる描画のストロークを eBeam Software が検知できない。 | ハードウェア | <ul style="list-style-type: none"> ・ eBeam システム 3 を使用している場合は、センサーポッドの「足」を点検してください。eBeam システム 3 には、センサーポッドが落下した場合に外れるようにデザインされた部分があります。両方の「足」が正しく付随していることを確認してください。 ・ 電子ペンをホワイトボードに押し付けてみて、かすかな音が聞こえない場合は、電池を交換してください。 ・ 電子ペンの先端部分を持って描画していないことを確認してください。電子ペンからの信号を指で妨げている可能性があります ・ 描画の際に電子ペンをホワイトボードにしっかりと押し付けていることを確認してください。電子ペンはマーカのホワイトボードへの通常の圧力で描画できるようにデザインされていますが、しっかりと押さないとシグナルが受信されないことがあります。 |

| メッセージ | eBeam | 対策 |
|---|--------|---|
| <u>eBeam Software のミーティングアプリケーション</u> での電子ペンの描画カラーが意図したカラーと異なる。 | ハードウェア | <ul style="list-style-type: none"> ・ 正しい電子ペンを使用していることを確認してください。eBeam マーカ先端近くのカラーリングの色が、その電子ペンの描画カラーです。混乱を避けるため、カラーリングと同じ色のマーカを電子ペンに挿入することをおすすめします。 |
| | ソフトウェア | <ul style="list-style-type: none"> ・ 「ホルダー設定」ダイアログボックスでの eBeam マーカホルダーの設定を確認してください (<u>描画線の幅とカラーの設定参照</u>)。eBeam Software で eBeam マーカ用に異なるカラーが設定されている可能性があります。 |

| メッセージ | eBeam | 対策 |
|---|--------|--|
| ホワイトボード底部での電子ペンの描画が eBeam Software のミーティングアプリケーション に表示されない。 | ハードウェア | <ul style="list-style-type: none"> 電子ペンをホワイトボードに押し付けてみて、かすかな音が聞こえない場合は、電池を交換してください。 電子ペンの先端部分を持って描画していないことを確認してください。電子ペンからの信号を指で妨げている可能性があります 描画の際に電子ペンをホワイトボードにしっかりと押し付けていることを確認してください。電子ペンはマーカのホワイトボードへの通常の圧力で描画できるようにデザインされていますが、しっかりと押さないとシグナルが受信されないことがあります。 |
| | ソフトウェア | <ul style="list-style-type: none"> ホワイトボードの調整済み描画エリア内に描画していることを確認してください。(調整参照) |

| メッセージ | eBeam | 対策 |
|-----------------|--------|--|
| イレーザで描画を消去できない。 | ハードウェア | <ul style="list-style-type: none"> ホワイトボードにイレーザをしっかりと押し付けていることを確認してください。押し付けた際にかすかな音が聞こえない場合は、電池を交換してください。 |
| | ソフトウェア | <ul style="list-style-type: none"> eBeam Software のミーティングアプリケーション の「ツール」メニューから「eBeam Hardware：検知」を選択し、状況ラインを確認してください。eBeam ハードウェアが検知されていないことが表示されている場合は、接続方法 を参照してください。 |

トラブルシューティング

ショートカットストリップ

| メッセージ | eBeam | 対策 |
|---------------------|--------|--|
| ショートカットストリップが機能しない。 | ハードウェア | <ul style="list-style-type: none"> ホワイトボード上のショートカットストリップを、電子ペンでしっかりと押していることを確認してください。押し付けた際にかすかな音が聞こえない場合は、電池を交換してください。 |
| | ソフトウェア | <ul style="list-style-type: none"> ショートカットストリップが使用可能に設定され、調整されていることを確認してください。(ショートカットストリップの使用参照) |

トラブルシューティング

eBeam ミーティングアプレット

| メッセージ | eBeam | 対策 |
|----------------|--------|--|
| アプレットがロードされない。 | ソフトウェア | <p>MS Internet Explorer</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ツール」メニューから「インターネットオプション」を選択し、「セキュリティ」タブをクリックし、「制限サイト」をクリックします。それから、「カスタムレベル」ボタンをクリックし、スクロールして「Microsoft VM」を表示し、「Java を使用しない」が選択されていないことを確認します。確認後、アプレットのロードを再試行してください。 「ツール」メニューから「インターネットオプション」を選択し、「ファイル削除」ボタンをクリックしてから、アプレットのロードを再試行してください。 <p>Netscape Navigator</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ファイル」または「編集」メニューから「環境設定」を選択し、「詳細」をクリックして、「Java を使用する」が選択されていることを確認してください。 「ファイル」または「編集」メニューから「環境設定」を選択し、「詳細」をクリックして、「キャッシュ」をクリックします。それから、「メモリキャッシュを消去」と「ディスクキャッシュを消去」ボタンをクリックしてから、アプレットのロードを再試行してください。 |

| メッセージ | eBeam | 対策 |
|---------------------------|--------|--|
| iVISTA 使用中にアプレットをロードできない。 | ソフトウェア | <p>iVISTA と eBeam Software のミーティングアプリケーションは、両方ともデフォルト通信ポートをポート「80」に設定しています。eBeam ミーティングを「81」以上または他のポート値で主催してみてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ミーティングを開始」ダイアログボックスから、「このミーティング主催には主催者の PC を使用」を選択し（<u>ミーティングの主催と共有参照</u>）、ポート欄に「81」を入力します。 ミーティングに参加しようとしているユーザは、「http:// ミーティング名 :81」を入力します。（ここでのミーティング名は、「ミーティング名」欄に入力したミーティング名を、「81」はポート値を指します。） |

| メッセージ | eBeam | 対策 |
|--|--------|--|
| 「ミーティングに参加」ダイアログボックスで共有ミーティング名が表示されない。 | ソフトウェア | <ul style="list-style-type: none"> ・ ミーティングの主催者が「ミーティングを開始」でミーティングの共有を設定する際、ミーティング名を公開するかどうか選択できます（ミーティングの主催と共有参照）。ミーティング名が公開されている場合は、「ミーティングに参加」ダイアログボックスにミーティング名が表示されます。ミーティング名が公開されていない場合は、ミーティング名欄に手動でミーティング名を入力してください。 ・ ミーティングの主催者は、「ミーティングを開始」ダイアログボックスで「ミーティング名を公開」を選択し、ミーティング名を公開してください。 ・ イン트라ネットがプロキシサーバ/ファイアウォールを使用しているかどうか、確認してください。ほとんどのイン트라ネットは使用している可能性があります。プロキシサーバを使用可能に設定していない場合は、使用可能にしてください。（プロキシサーバの設定参照） |

トラブルシューティング

背景画像

| メッセージ | eBeam | 対策 |
|----------------------------------|--------|---|
| MS Excel のスプレッドシートが正しくインポートされない。 | ソフトウェア | <ul style="list-style-type: none"> ・ スプレッドシート内にグラフが含まれていないことを確認してください。eBeam Software のミーティングアプリケーションは、グラフを含むスプレッドシートのインポートをサポートしていません。 ・ Excel スプレッドシートをロードを参照してください。 |

| メッセージ | eBeam | 対策 |
|-------------|--------|---|
| 背景画像の品質が悪い。 | ソフトウェア | <ul style="list-style-type: none"> ・ アプレットミーティングビューアに送られた背景画像は、高速ダウンロード用にかなり圧縮されています。背景画像の品質をより良く表示するには、eBeam Software のミーティングアプリケーションを使用することをおすすめします。 |

トラブルシューティング